

平成30年度版
京都市の学校評価システム

平成29年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成30年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	14

II 学校での取組事例

1 京都市立錦林小学校	19
2 京都市立下京雅小学校	36
3 京都市立下京中学校	51

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり、教育活動の質的向上等を目的に、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」での学校評価を実施している。

制度の導入にあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し、学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、全教職員が学校教育目標とその具現化に向けた実践を行うと同時に、評価項目・指標・評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「自分ごと」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、教職員や学校関係者が、よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価することを基本としている。このため、学校関係者による評価においても「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」についても協議していただくことにしている。

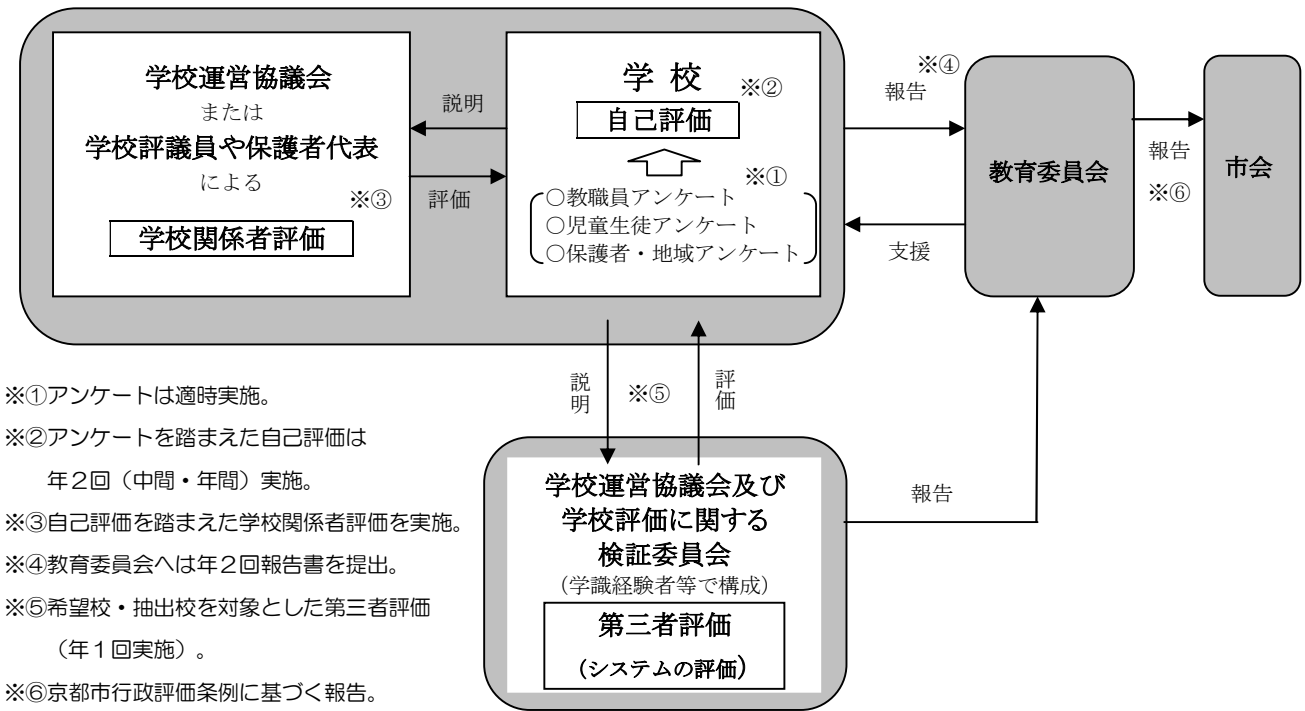
(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んでいる。

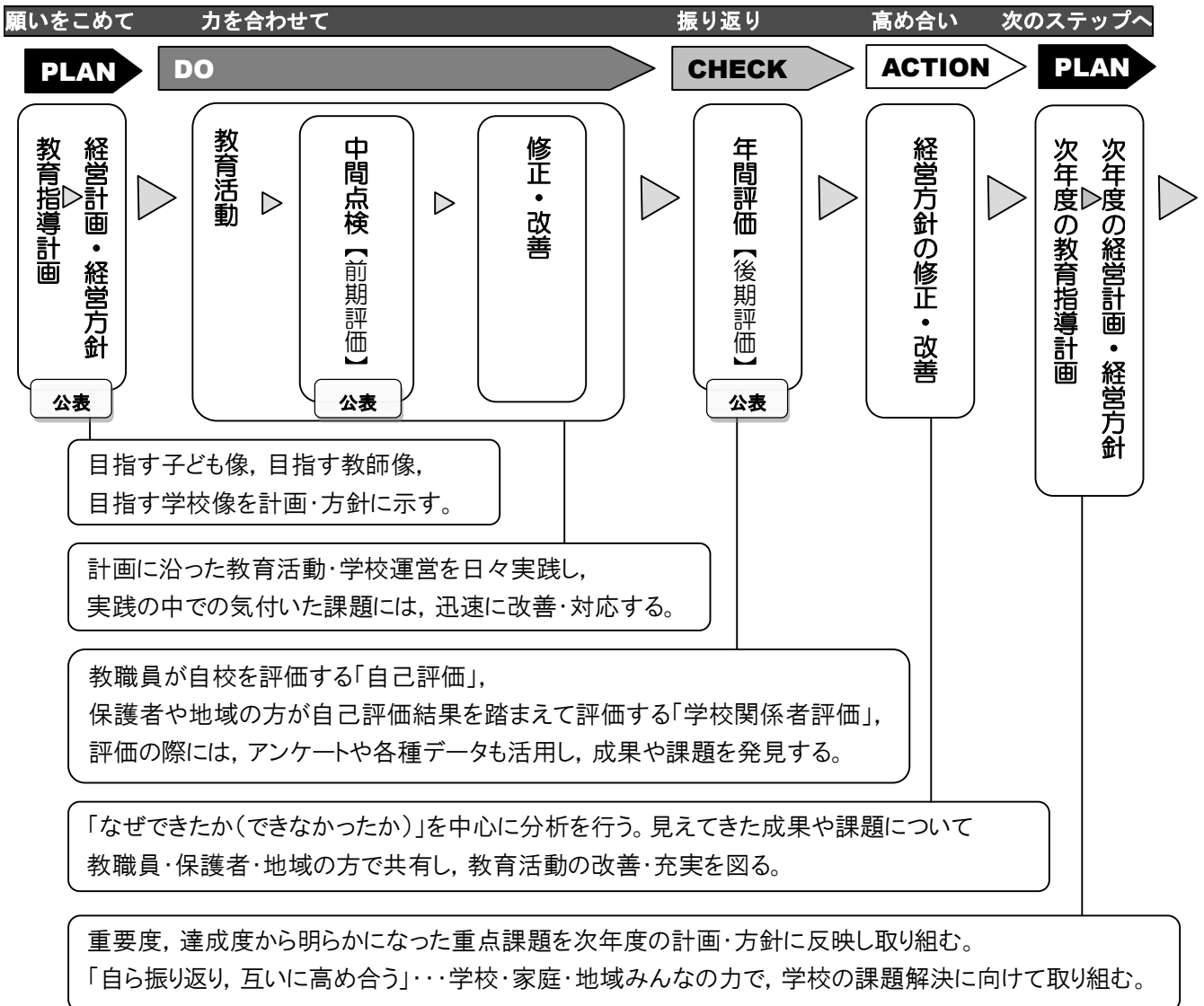
(4) 学校の魅力を発見し、発信する

学校評価を実施することで把握した学校の課題を、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」（本市独自作成）を活用し、自校の魅力や課題が一目で分かる魅力・課題発見型（ニーズ調査型）のアンケート手法を導入している。これらの結果の概要は全学校がホームページで公開するとともに、学校だより等でも保護者や地域に積極的に情報発信している。

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》

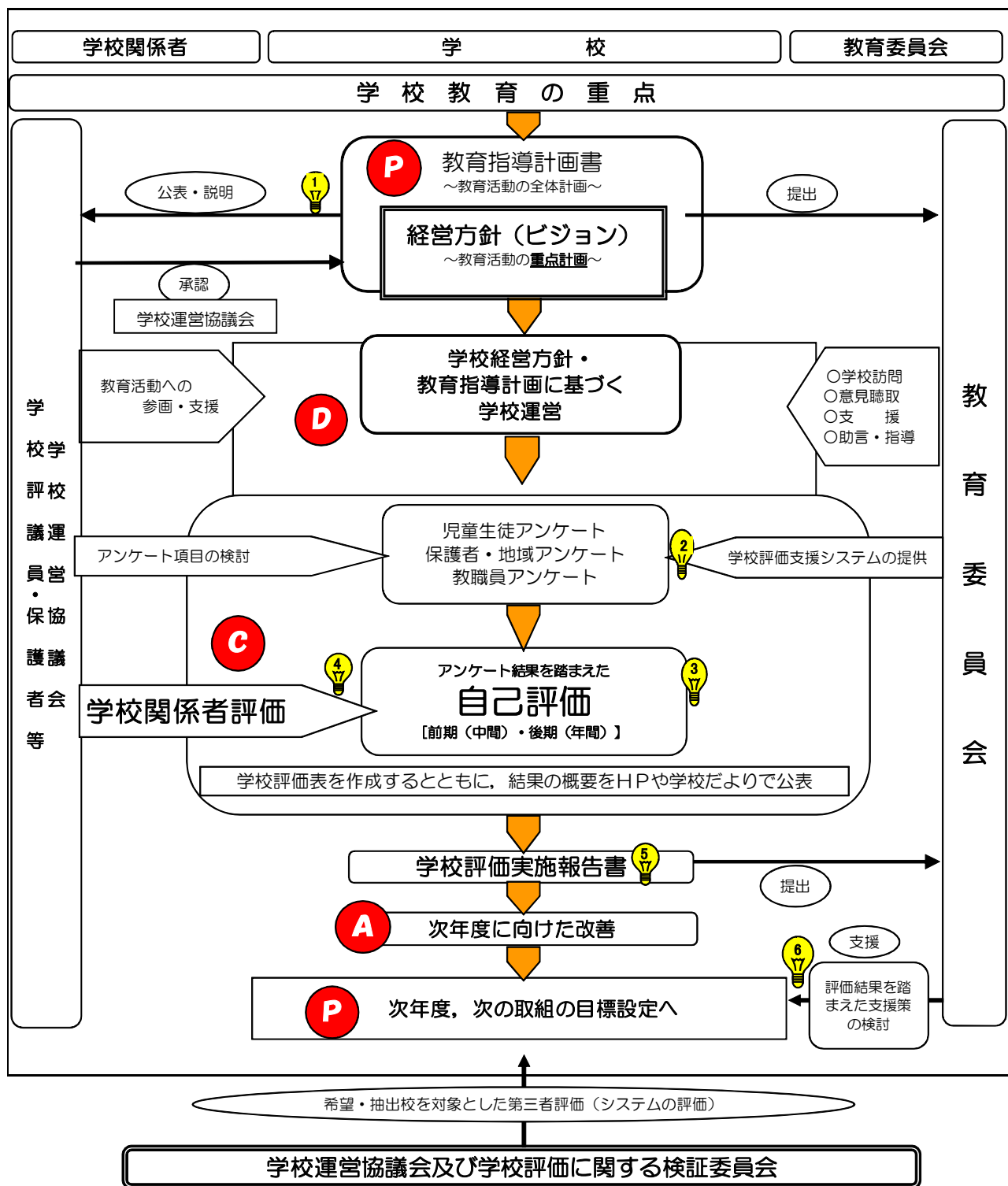


《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成29年度は、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の4点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施（2中学校ブロック、計6校を訪問）。学校教育活動や学校評価、学校運営協議会の取組に加え、本市において平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の取組についても評価の観点とするため、前年度に引き続き、中学校ブロック単位での訪問を実施。
- (2) 児童生徒や保護者・地域、教職員を対象としたアンケートについて、各校がより効率的かつ多面的に評価・分析を行えるよう、教育委員会において、アンケートを作成・集計・分析するための「京都市版学校評価支援システム」を運用・支援。
- (3) 学校評価の充実に向け、各校で作成する「学校評価実施報告書」において、各校が設定する評価項目に加え、毎年度教育委員会で定める「学校教育において重視する視点」（「学校教育の重点」に記載）を評価項目に設定。全ての学校で、重点的に取り組むべき事項についての成果や課題の把握に努め、学校教育活動の充実を図るとともに、京都市としての取組の評価も行った。さらに、平成30年度分から、組織的、計画的な学校評価が深まるよう、各校の教育活動の全体計画である教育指導計画書を前年度中から作成することで、新年度の実践に早期から繋げられるよう変更。
- (4) 教職員・学校運営協議会委員等を対象にした研修会において、学校評価に関する説明を行い、学校評価の意義や活用方法について、改めて周知を行った。

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

全ての学校で、保護者、児童生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各校の学校だよりやホームページ等で取り上げ、結果を公表した。

(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で、学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から、意見だけではなく、子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、読み聞かせボランティア、地域見守り隊、総合的な学習の時間における地域ボランティア・保護者との連携の充実など学校としての取組や、読書に関する意識を高めるための親子読書といった家庭での取組、地域行事で子どもが活躍できるような地域での取組など、様々な活動における支援の拡大・充実に繋がっている。

(3) 学校評価の実施にあたって

全ての学校に対し、「評価結果の公表方法及び内容の工夫」や「学校評価の効果」、「実施にあたっての課題」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

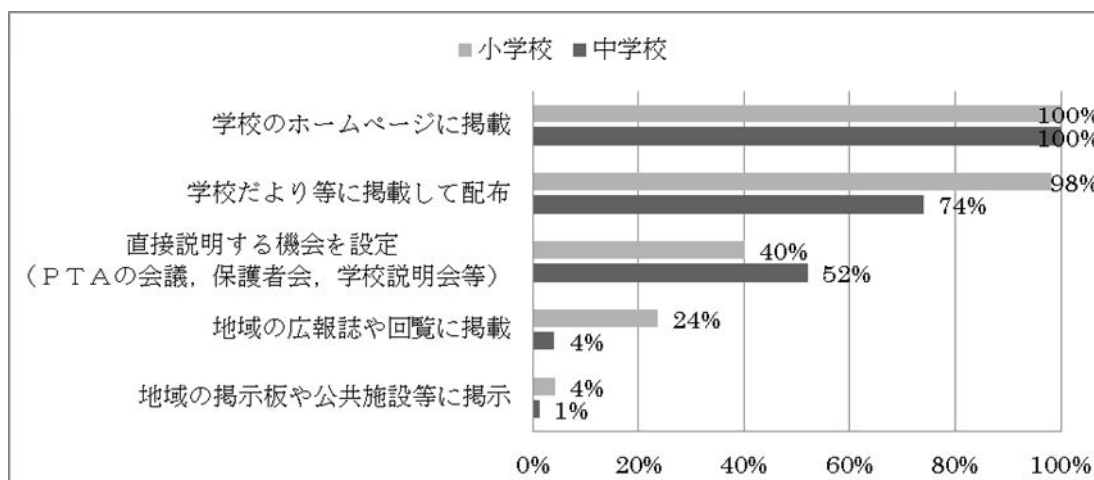
ア 公表方法や内容の工夫について

評価結果の公表については、全校で学校評価の結果をホームページに掲載しており、さらに、学校だよりや地域の掲示板に掲載したり、学校運営協議会等の会議の場で直接説明する機会を設けたりするなど複数の方法を活用し、それぞれの学校で保護者や地域の方々に対して積極的な発信を行っている。また、多くの学校で、評価結果の分析や課題等についての説明を記載するとともに、グラフを使って結果を示したり、児童生徒・保護者・教職員それぞれのアンケートにおける同内容の質問項目への回答を比較したりする等の方法を用いて、分かりやすい発信に努めている。

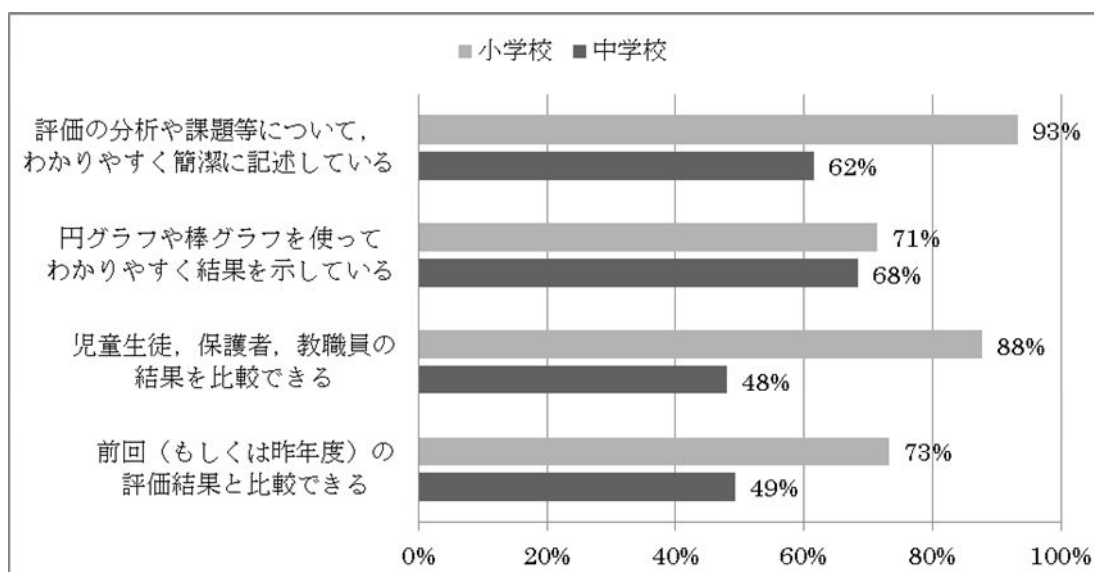
さらに、分析結果は、多くの中学校ブロックにおいて、同一ブロック内の小学校・中学校間で共有され、義務教育9年間を連続した学びの場としてとらえる小中一貫教育の視点で、小中連携、小小連携に関わる各校の取組の改善が進められている。

また、今後、より多くの地域の方々に、学校の取組を知っていただけるよう、PTAの会議や地域の掲示板等を通じて、評価結果の公表を行うなどの工夫が必要である。また、公表内容についても、円グラフや棒グラフを使用し、見やすく伝わりやすい図で示すなど、公表方法の工夫をしながら、各校の課題解決に繋げる必要がある。

評価結果の公表方法についての工夫



評価結果の公表内容についての工夫

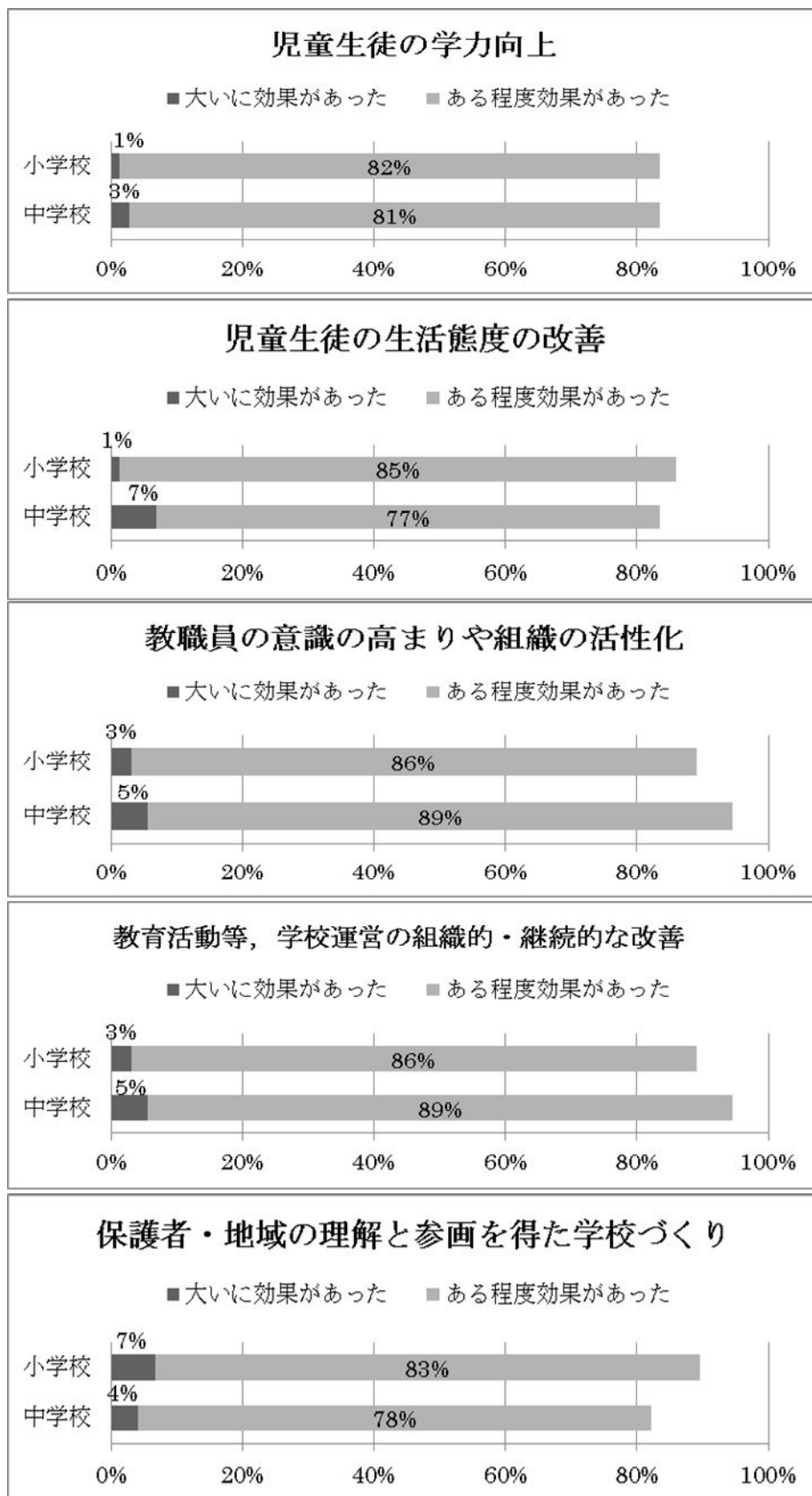


イ 効果について

学校評価の効果については、児童生徒の学力向上や生活態度の改善、教職員の意識の向上または深化や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりの各観点においても、約8割を超える学校で効果が出ているとの結果が出ている。学校評価を通じて、学校・保護者・地域が連携・協働する体制が育成され、子どもたちの学びと育ちを支える仕組みが定着してきている。

また、学校評価を通じて明らかとなった学校や子どもたちの課題を、職員会議において教職員間で共有し改善に向けて協議を重ね、また、学校運営協議会や学校評議員に対しても説明し、更なる協力・支援を求めるなど、PDCAサイクルの中で地域や教職員が一体となり、課題解決に向けた取組が進められている。

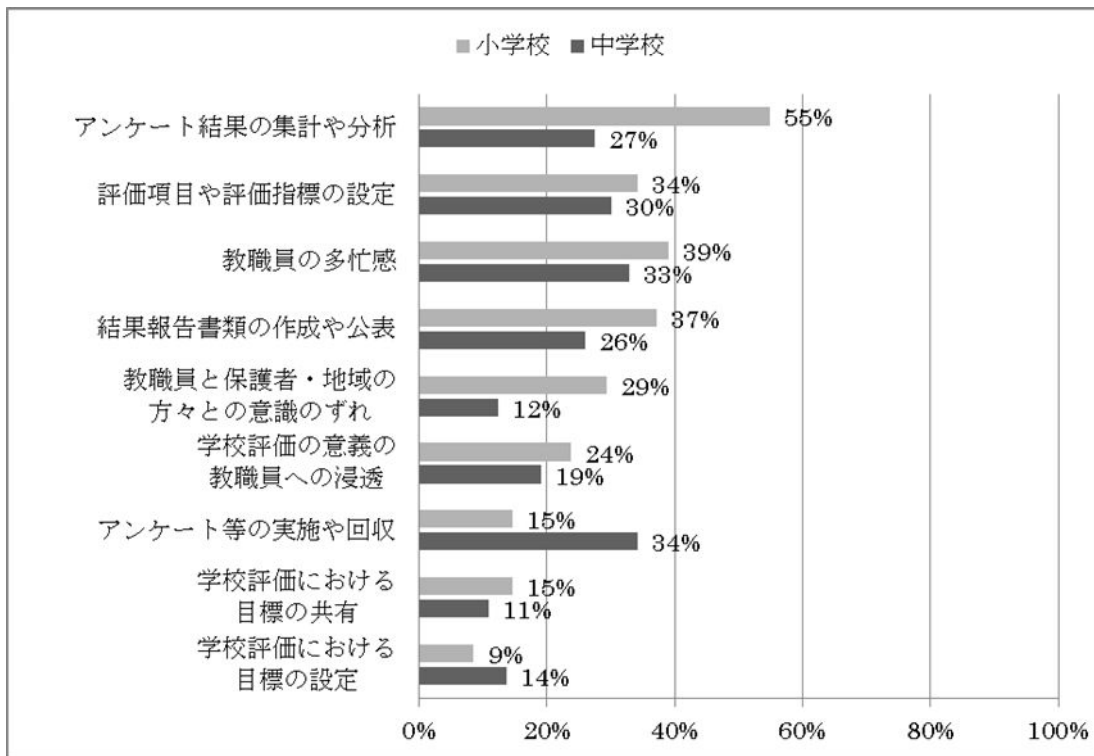
学校評価の効果について



ウ 課題について

学校評価の課題については、アンケートの実施、集計や分析に係る報告書類作成の作業を煩雑と感じる学校が見受けられることから、平成26年度から導入している学校評価支援システムについて、平成29年度には、アンケート帳票の分析時にエラー発生率が低減するように、システム改修を行いながら、学校・教職員の更なる負担軽減に努めた。また、保護者アンケートの回収率は約8割となっており、今後も引き続き、学校評価の意義について説明し、保護者・地域との信頼関係を基礎に、連携しながら学校評価の取組を推進する。

学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



(4) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校運営や教育活動の質の向上に繋げるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（29年度）敬称略・役職等は委員任命当時のもの】

安宅 信代	公募委員（羽束師小学校学校運営協議会委員）	
○天笠 茂	千葉大学特任教授	
加藤 明	関西福祉大学学長	
◎小松 郁夫	流通経済大学教授	
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長	
内藤 隆文	公募委員（嵯峨中学校学校運営協議会委員）	
西川 信廣	京都産業大学教授	
古澤 奈央子	P T A代表（京都市小学校P T A連絡協議会庶務）	
堀内 孜	京都教育大学名誉教授	
田中 順子	京都市立みつば幼稚園長	
太田 由枝	京都市立大枝小学校長	
村田 博哉	京都市立京都御池中学校長	
芝山 泰介	京都市立桃陽総合支援学校長	
諏佐 準一	京都市教育委員会学校指導課長	※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 平成29年度 検証委員会開催状況

①第1回会議

- ・日時 平成29年10月27日（金）10：00～
- ・会場 京都市教育相談総合センター こども相談センターパトナ 会議室
- ・委員 小松委員長，天笠副委員長，安宅委員，加藤委員，塩尻委員，内藤委員，堀内委員，太田委員，村田委員，芝山委員，諏佐委員
- ・議題 学校評価及び学校運営協議会について
検証委員会の学校訪問について

・議事概要

(学校評価及び学校運営協議会について)

- PDCAサイクルの“P”にあたる「学校が目指す方向性」や「目標」，前年度結果における「課題」について，新年度当初に教職員が共有することが非常に重要である。また，学校運営協議会の中で，年度当初に経営方針が共有されたり，学校だよりなどの保護者向けの資料を通じて共有されたりすることは，学校の様子や課題が分かるので重要である。
- 学校教育目標は，子どもたちの変容を軸に見直しが図られてきたが，今後は，学年経営や教職員の様子についても評価・改善の観点に捉える等，学校評価を見直してはどうか。
- 他の政令指定都市では，学校運営協議会の設置に苦労しているところが多い中で，京都市の設置率は高い。しかし，中学校の設置率は100%ではないので，引き続き，現在設置されている中学校を土台として，全校に設置してほしい。
- 各校が設定している学校教育目標が地域に十分に浸透していないために，学校教育目標を達成するための具体的な教育活動として反映されているかどうかを検証できないところがある。改めて，学校運営協議会において，地域・保護者の方に学校教育目標の位置づけや，教育活動との関連性について周知するなど，学校運営協議会としての活動の中身についても見直す必要がある。
- 従来，「子どもの変容」について，論点が集中していたが，今後は，教職員の働き方についても評価項目に含めていく必要があるのではないかと。
- 学校内外での教職員同士の連携なども教職員の資質・能力向上においても重要な要素である。教育委員会から発行される「学びのコンパス」を通じて紹介される各校の取組を知ることで，自校の取組へのより良い改善に繋がり，自校が紹介されたら励みになると思うので，教職員の横の繋がりにも支援をしながら，学校評価の観点とすることを検討されたい。

(検証委員会の学校訪問について)

- 学校訪問の際には，学校教育目標等の説明だけでなく，若手教職員の人材育成に係る方針についての説明，教職員や児童生徒とも意見交流する機会を設けていただきたい。
- 小中一貫教育での学校評価の取組が分かるよう，同一中学校区内の小学校，中学校を訪問できると良いのではないかと。

②検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが，学校現場において，学校運営における課題解決に向けたシステムとしての的確に機能しているかどうかを検証するため，学校訪問を実施した。平成29年度の学校訪問にあたって，本市において平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の観点も踏まえ，前年度に引き続き中学校区単位での学校訪問とし，以下の2中学校区（岡崎中学校区及び下京中学校区）において，校長・地域連携担当教員・学校運営協議会委員へのヒアリング，授業参観等を実施して，カリキュラム及び授業以外の教育活動における子どもたちの姿からも学校の取組について評価していただいた。

<岡崎中学校区>

(ア) 岡崎中学校において実施

- ・日 時 平成29年12月7日(木) 9:00~13:10
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 加藤委員, 塩尻委員, 西川委員, 古澤委員, 太田委員, 芝山委員
- ・内 容 岡崎中学校区3校(錦林小学校, 第三錦林小学校, 岡崎中学校)の概要説明
2中学校4小学校(※)における小中一貫教育の取組説明
岡崎中学校の取組

※2中学校(岡崎中, 近衛中)に, 4小学校(錦林小, 第三錦林小, 第四錦林小, 北白川小)から進学する複雑な通学区域を有する学校区。

(イ) 錦林小学校において実施

- ・日 時 平成29年12月7日(木) 13:30~16:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 塩尻委員, 内藤委員, 西川委員, 古澤委員, 太田委員, 芝山委員
- ・内 容 錦林小学校の取組

(ウ) 第三錦林小学校において実施

- ・日 時 平成29年12月12日(火) 9:00~13:00
- ・委 員 小松委員長(リーダー), 塩尻委員, 内藤委員, 古澤委員, 太田委員, 芝山委員
- ・内 容 第三錦林小学校の取組
3校合同協議(錦林小学校, 第三錦林小学校, 岡崎中学校)

<下京中学校区>

(ア) 下京中学校において実施

- ・日 時 平成29年12月13日(水) 9:00~13:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 安宅委員, 堀内委員, 村田委員, 諏佐委員
- ・内 容 下京中学校区5校(洛央小学校, 下京涉成小学校, 下京雅小学校, 梅小路小学校, 下京中学校)の概要説明
下京中学校の取組

(イ) 下京雅小学校において実施

- ・日 時 平成29年12月13日(水) 13:25~16:10
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 堀内委員, 村田委員, 諏佐委員
- ・内 容 下京雅小学校の取組

(ウ) 洛央小学校において実施

- ・日 時 平成29年12月19日(火) 9:00~13:00
- ・委 員 天笠副委員長(リーダー), 安宅委員, 堀内委員, 諏佐委員
- ・内 容 洛央小学校の取組
5校合同協議(洛央小学校, 下京涉成小学校, 下京雅小学校, 梅小路小学校, 下京中学校)

委員からは、「同一中学校区の小学校と中学校の学校訪問を通して、様々な活動で小中連携することで、学校評価の機能についても、小学校・中学校間で情報交流が深められている様子がうかがえた。」との評価をいただいた。

また、今後の課題としては、「年間を通じて、アンケート結果だけでなく、全国学力・学習状況調査の結果や質問紙調査等、様々な指標を用いた分析結果が報告されていた。さらに構造

的・総合的な改善に繋がられるよう、結果の公表にあたっては、各種調査を統一したグラフで図示したり、各種指標のクロス集計を行ったりするなど、報告方法について工夫すると良いのではないか。」等の意見をいただいた。

③第2回会議

- ・日 時 平成30年2月22日（木）10:00～12:00
- ・会 場 京都市教育相談総合センター こども相談センターパトナ 会議室
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，安宅委員，加藤委員，塩尻委員，内藤委員，西川委員，堀内委員，太田委員，村田委員，芝山委員，諏佐委員
- ・議 題 京都市の学校教育の充実に向けて（学校訪問等も踏まえて）
- ・議事概要
（京都市の学校教育の充実に向けて（学校訪問等も踏まえて））

【小中一貫教育について】

<岡崎中学校区>

- 4小学校から2中学校に進学するという複雑な通学区域である岡崎中学校ブロックでは、地域事情をもとに、小中一貫教育として、合同研修会や管理職会議等による、教職員間の計画的な情報交流・連携が行われており、学習規律や学習状況の足並みを揃えながら、中1ギャップ等、子どもたちの困りの解決に向けて尽力されている。
- 学習規律や学習習慣等は、中学校での学習において前提条件となるので、今後は、小中連携だけでなく、小小連携の中で取り組むことが重要となる。
- 小学校と中学校の組織的な違いにも配慮しながら、その異同を積極的に活用することで、双方で学校改善・授業改善につながるのではないかと。小学校で定着している「めあて」と「振り返り」のある授業展開についても、小中の教職員が、授業交流や合同での研究協議を通して、双方の授業を見合ったり、意見交換したりすることで、今後中学校でも定着していくことが期待できる。

<下京中学校区>

- 1中4小学校という中学校ブロックであるが、5校とも統合を経験した学校であり、通学区域が広い中学校区であるという地域性を活かしながら、保護者や地域との連携が深められるよう、共通のリーフレットによる保護者への呼び掛けなど、ブロック全体で小中連携が進められている。
- 学校評価アンケートだけでなく、教職員と保護者が日常的な会話を通じて情報共有を図るなど、学校・保護者・地域が一体となり、学校教育目標に向かって話し合い、連携・協働の中で、学校の課題解決に向かって取り組むという学校評価のあるべき姿が見受けられた。

【今後の検証委員会の方向性等について】

- 小中一貫教育の下、学校評価が行われることで、小中9年間の連続した学びと育ちに着目し、学校教育目標の振り返りと改善というサイクルや体制は定着してきている。今後は、より一層、学校評価の取組を活かすため、各校の学校教育目標の実現に向けた具体的な取組がなされているか、授業力の向上やカリキュラムマネジメントの観点についても分析されているか等についても、学校評価の観点としていくことが必要ではないかと。
- 学校運営協議会が組織され、一定、定着してきている一方で、メンバーの固定化等によるマンネリ化が生じている。改めて、学校・保護者・地域がそれぞれの立場で、学校の取組を見直し、子どもの育ちと課題について共有し、課題の解決に向けて改善を行う学校評価の仕組みが形骸化しないよう、検証委員会において総合的に点検することが必要である。

- 学校評価は、まず教職員自身が学校評価の基準や改善に向けた具体的方策について考え、教職員が達成感を持てるものになっているかが重要である。ある程度システム化され、アンケートの実施、分析、報告などがルーティン化している様子があるので、教職員が進んで「学校づくり」をしたいと思うような評価の在り方についても検討すべき。
- 小中一貫教育や学校評価において、従来は小中連携に注目が寄せられてきたが、小小連携など、同一校区内の他校との連携や地域マネジメントも、義務教育9年間の学びを考えるうえで今後必要となる視点ではないか。

(5) 学校評価支援システムの運用

ア 概要

平成26年度に導入した「京都市版学校評価支援システム」は、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面においても、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自のシステムである。導入以降も、学校からの要望を踏まえ、アンケート作成や集計、結果分析をより効率的かつ多面的に実施できるよう、「アンケート結果の学年・組での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等の機能を追加し、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を容易にできるよう改善している。さらに、平成29年度には、結果分析において、回収したアンケートのスキャン時のエラー発生率を減らすなど、利便性の向上に向けてシステム改修を実施し、各校で活用されている。

イ 活用状況

学校評価支援システムを活用している学校は、全小・中学校の約8割となる189校である。そのうち、学校評価支援システムを活用し、「重要度」と「実現度」との両方を聞き、自校の魅力や課題を分析出来るニーズ調査型アンケートを74校で実施している。学校評価支援システムが、学校の実情に応じて適宜安定的に活用されているといえる。今後も、ニーズ調査型アンケートによる調査・分析を活用しながら、各校が課題解決に向けて取り組めるよう、丁寧な運用支援を行っていききたい。なお、学校評価支援システムを活用せずにアンケートを実施している学校においても、約8割の学校が評価の分析や課題等について簡潔に記述したり、円グラフや棒グラフを使ってわかりやすく結果を示したりするなど工夫をしている。

参考1. 学校評価支援システムを活用してアンケートを実施している学校の状況

アンケートの実施状況	小学校		中学校		合計	
	実施校数	実施校数 /全小学校数	実施校数	実施校数 /全中学校数	実施校数	実施校数 /全小中学校数
「重要度」と「実現度」を聞くニーズ調査型アンケートの実施	53	32.3%	21	28.8%	74	31.2%
「実現度」のみを聞くアンケートの実施	77	47.0%	38	52.1%	115	48.5%
合計	130	79.3%	59	80.8%	189	79.7%

参考2. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

◆ 挨拶について		重要度				実現度			
以下の項目について、「どのくらい重要だと思うか(重要度)」と、「実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1	自ら進んで挨拶をすること	○	○	○	○	○	○	○	○
2	相手の気持ちを思いやって接すること	○	○	○	○	○	○	○	○

参考3. ニーズ調査型（魅力・課題発見型）分析の例

学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	7	1.1	48.3
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	3	1	21
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	4.9	5	14.7
子どもが他人を思いやり、親切にすること	7	5	21
子どもが楽しく学校に通っていること	7	5	21
子どもが将来の夢や希望について考えること	7	1.1	48.3
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	2.9	2.9	14.8
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	7	4.9	9
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	7	7	7
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	7	7	7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	5.7	3.5	25.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子を保護者に伝えること	6.9	3.4	31.7

■ は、重要度が高い項目
■ は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。
■ は、実現度が低い項目

学校評価支援システムにおけるニーズ調査型の分析の見方

以下の計算方法で、システム内で自動計算し、表またはグラフ等で分析結果として表示。

※重要度及び実現度の計算方法

4段階評価の回答内容を、以下の数値に置き換えて、全回答者の平均値を算出。（最大値は7、最小値は1）

「とても重要である」 / 「とても出来ている」 7

「やや重要である」 / 「やや出来ている」 5

「あまり重要でない」 / 「あまり出来ていない」 3

「重要でない」 / 「出来ていない」 1

- ・重要度及び実現度がともに、7に近い数値であるほど、評価者が重要だと考えており（重要度）、評価者が実施出来ていると考えている（実現度）ことを示す。
- ・重要度が高く、実現度が低い場合は、評価者が重要だと考えているが（重要度）、評価者が実施出来ていないと考えている（実現度）ことを示す。

※ニーズ度の計算方法

重要度と実現度の結果を乗して算出。（最大値は49、最小値は1） 計算式「重要度×（8－実現度）」
 数値が高い（重要度が高く、実現度が低い）項目は、自校の課題となり、数値が低い（重要度が高く、実現度が高い）項目が、自校の魅力となる。（ただし、重要度が低く、実現度が高い項目は、自校の魅力とまでは言い難いが、達成できている項目と分析出来る。）

- ・重要度が7、実現度が1の場合 「7×（8－1）＝49」となる。
重要度は高いが、実現度が低いので、最大値である49となり、自校の課題と分析出来る。
- ・重要度が7、実現度が7の場合 「7×（8－7）＝7」となる。
重要度が高く、実現度も高いので、自校の魅力（すでに達成できている）と分析出来る。

		重要度も実現度も高い項目		重要度が低く、実現度が低い項目	
高 ↑ 実現度 ↓		学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが将来の夢や希望について考えること
		子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	子どもが他人を思いやり、親切にすること	子どもが楽しく学校に通っていること
低		子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	学校の教育方針が保護者に伝わっていること	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが将来の夢や希望について考えること
		子どもが丈夫な体をつくろうとすること	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが適切な言葉づかいをすること

重要度の高い項目
実現度の低い項目
重要度が高く、実現度が低い項目

重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。
 また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。

(6) 「学校評価実施報告書」及び「教育指導計画書」の充実

更なる学校評価の充実に向けて、各校で作成する学校評価実施報告書において、教育委員会で定める「学校教育の重点」に記載している「学校教育において重視する視点」を引き続き評価項目に設定した。

また、教育指導計画書について、例年、年度当初に学校への作成依頼を行っていたが、前年度の課題を次年度に改善できるよう、計画・実施・分析・改善というPDCAサイクルの中で、次年度の計画策定や実施体制構築の早期化に向け、平成30年度分から、学校への作成依頼を前年度中に実施した。

(7) 学校評価に関する学校運営協議会関係者向け研修会での周知

学校運営協議会の委員等を対象とした研修会(平成29年10月17日開催,約300名参加)において、「開かれた学校」として、学校運営の中に地域の声を反映していくための「学校運営協議会」のあり方や位置づけ、「学校評価」における学校関係者評価について改めて説明を行った。地域とともにある学校として、保護者・地域の方々の意見を学校づくりに活かし、また、学校支援ボランティア等としての支援もいただきながら、より良い学びと育ちを支援する学校に向けて、継続的な協力と支援を依頼した。

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評議員の設置を明記)	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないように、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足(～平成15年2月)	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年3月		○小・中学校設置基準 (自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定)
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	

年月	京都市	国
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」(実践事例集・ガイドライン)発行	
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年6月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正(学校運営協議会が設置できるようになる)
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』(義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる) ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』(大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起)
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた… 「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』(京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表)
H18	○児童生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会(平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組)を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」(学校教育制度の評価確立が求められる) ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』(保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言)
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」(個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している) ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定(学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○学校教育法施行規則一部改正(学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)

年月	京都市	国
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』 改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184校設置 (総合支援学校全校設置)	
H25年3月	○学校運営協議会 192校設置	
H26年3月	○学校運営協議会 210校設置	
H26年4月	○文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校 運営体制の構築に向けた調査研究」受託(～ 27年度)	
H27年3月	○学校運営協議会 229校設置 (小学校全校設置)	○文部科学省「コミュニティ・スクールの推進等に関する 調査研究協力者会議」報告書公表 (コミュニティ・スクールの拡大・充実のための推進 方策や今後の学校運営協議会制度等の在り方等につい て提言)
H27年12月		○中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の 実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後 の推進方策について」 (全ての公立学校がコミュニティ・スクールを目指す べきであり、教育委員会は積極的にコミュニティ・ス クールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討 すべきである)
H28年3月	○学校運営協議会 233校設置	○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (平成28年4月の義務教育学校並びに小中一貫型小学 校及び小中一貫型中学校制度化を踏まえ、小中一貫教 育を実施する学校における学校評価の留意点を反映)
H28年4月	○文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向 けた業務改善等の推進事業(小中一貫教育等 に対応した学校評価の取組研究)」受託	
H29年3月	○学校運営協議会 239校設置	○文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」 改定(学校評価において、いじめの有無や多寡のみで はなく、いじめが発生した際の迅速かつ適正な情報共 有や組織的な対応が評価される旨の教職員周知の徹底 を明文化)
H29年4月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正 (教育委員会に対する学校運営協議会の設置の努力義 務化、学校運営への支援について協議事項に位置付け)
H30年3月	○学校運営協議会 241校設置	

Ⅱ 学校での取組事例

学校での取組事例について

平成29年度に、検証委員会で訪問した岡崎中学校ブロック及び下京中学校ブロックから、3校（錦林小学校、下京雅小学校、下京中学校）の取組事例を掲載します。

（1）岡崎中学校ブロックについて

岡崎中学校ブロックは、4小学校（錦林小学校、第三錦林小学校、第四錦林小学校、北白川小学校）から2中学校（岡崎中学校、近衛中学校）に進学する、複雑な学校区である。こうした地域性を踏まえ、小中9年間の学びと育ちを連続性の中で育む小中一貫教育の充実において重要である、教職員の連携がより深まるよう、平成29年度には、校長会・教務主任会を定例で開催した。また、合同夏季研修会を行い、外国語教育や道德教育等、8つの分科会に分かれ、各学校の実践報告や課題等の情報共有を行った。

錦林小学校では、教育目標を「人と地域を大切にし、いきいきと学ぶ子どもの育成」とし、教育目標の達成に向け、道德教育や校内研究であるキャリア教育の充実等の取組を実施した。学校評価については、学校関係者評価を、前期は、平成29年10月11日及び12日に、後期は平成30年2月28日に実施した。また、児童・保護者・教職員アンケートを実施し、三者共通の項目を比較することで、学校の願いが児童・保護者に届いているかを検証した。その結果、新たな課題として、保護者にとってより一層相談しやすい学校づくりに向けた取組が必要であることが分かった。また、学校だより等を通じてアンケート結果を公表し、「粘り強く努力している」や「進んで読書をする」等、保護者と児童の結果に差がある項目については、児童が学校で一生懸命取り組む様子を交えながら説明し、子どもたちの更なる育ちに向けて、引き続き、学校だけでなく家庭での支援が必要であることも伝え、保護者や地域と協力・連携しながら取組を進めていくこととした。

（2）下京中学校ブロックについて

下京中学校ブロックは、4小学校（洛央小学校、下京雅小学校、下京涉成小学校、梅小路小学校）を校下に持つ通学区域の広い地域であることから、保護者や地域の方々にも、ブロック全体として取り組む小中一貫教育について知っていただくために、リーフレット「協働ノススメ」を作成・配布した。リーフレットには、ブロックとしての目指す子ども像、生活規律（挨拶の決まり、身だしなみのルール等）や、各校の学校教育目標を掲載し、保護者や地域と連携しながら、目指す子ども像の実現に向かって、保護者や地域と一体となって取組を進めた。

下京雅小学校では、教育目標を「伝統と文化、歴史を受け継ぎ、自ら未来を切り拓くことができる子どもの育成～探究 ふれあい 誇り～」とし、教育目標の達成に向け、国語科を核とした教科横断的な授業研究や、道德教育等の取組を行った。学校評価については、学校関係者評価を、前期は平成29年10月18日に、後期は平成30年3月8日に実施した。また、児童・保護者・教職員で、共通のアンケートを実施し、結果を学校だより等で公表した。児童に比べ保護者と教職員で実現度が低かった「読書習慣」は、定着に向けて、学校図書館の活用を促す取組や、家庭学習や自主学習で読書を取り入れながら取り組んだ。

下京中学校では、教育目標を「『志』を高く、多様化するグローバル社会の現実を直視し、主体的に学び続け、自らの人生を切り拓いていける人間の育成」とし、教育目標の達成に向けて、キャリア教育や言語活動の充実等の取組を行った。学校評価については、学校関係者評価を、前期は平成29年8月21日に、後期は平成30年2月26日に実施した。また、生徒・保護者・教職員アンケートを実施し、学校だより等を通じて結果を公表するとともに、「計画的な学習や学習習慣の定着」について、三者で約半数以上が出来ていると感じているが、生徒自らが計画的・主体的に学習に向かう姿勢は、まだ十分でないため、引き続き、家庭学習の内容や提出方法の見直し等、学校だけでなく家庭と連携しながら取組が必要である等の分析が深められた。

学校評価のねらい

学校評価を行うことにより、それを授業改善・学校改革に確実に生かすとともに、家庭・地域・児童、それぞれの振り返りにも役立つようにする。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	教育指導計画書の作成	学校教育方針の説明	学校だより (教育方針の発信)
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討		評価年間計画をHPに公表
	6			
	7			
	8	前期 学校評価項目の検討・共通理解		
	9	教職員自己評価 保護者アンケート 児童アンケート		
	10	評価結果の分析 後期方針の検討	学校だよりや学校ホームページで分析結果を公表	
	11		学校運営協議会への報告と意見集約	
	12			
	年 間	1		
2		保護者アンケート 児童アンケート 教職員自己評価 評価結果の分析 改善策の検討	学校運営協議会への報告と意見集約 次年度の方針を説明	学校だより、HPで分析結果を公表
3		次年度の方針の共通理解		

平成29年度 学校経営方針

平成29年3月30日 京都市立錦林小学校

京都市 学校教育の重点

京都市のめざす子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」

(3つの姿)・京都が育んできた伝統と文化に立脚し、広い視野と豊かな感性により、よりよい人生や社会を創造する子ども

- ・学校教育を通じた学びをいかし、社会的・職業的自立を果たす子ども
- ・多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となる子ども

平成29年度 重視する視点

- ①子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。
- ②全教職員が、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「主体的対話的で深い学び」等を柱とする次期学習指導要領の内容について理解を深める

校訓

実行力

教育目標

人と地域を大切にし、いきいきと学ぶ子どもの育成

目指す 学校像

学校愛・地域愛にあふれる学校

あたたかい言葉が学校中にあふれ、確かな努力が見つけられる学校

目指す 子ども像

あたたかい言葉で話せる子

ねばり強い努力をする子（努力はうそをつきません）

自分や仲間の良さを認められる子

目指す 教職員像

- ・一人一人の子どもを徹底的に大切にする。〈徹する〉
- ・自己研鑽に励み、高め合うことができる。〈高める〉
- ・共に働くことに喜びと誇りを持つことができる。〈つなげる〉

子どもの姿で信頼を得る学校

1 目指す子ども像の実現に向けて

あたたかい言葉で話せる子（人権意識を高める）

★No.1 人権意識を高める取組の実践（年度反省をいかして）

- あいさつをする心
- そろえる心
- 名前を正しく呼ぶ

一人一人が大切にされている
必要とされていると感じる

学年を超えて認め合える学校づくり

実行力

頭でわかっているだけではなく 徹底する

★No.2 道徳教育の充実

本校の研究「錦林じりつ未来教育」の中で確かな位置づけで実践

教科横断的な視点でカリキュラムを組織的に編成し、学校教育の改善・充実に好循環（PDCA）を展開する

★No.3 子どもの命を守りきる教育

- 見逃しのない観察
- 手遅れのない対応
- 心の通った指導
- 保健教育の充実
- 食に関する教育
- 安全教育・防災教育

学校の組織力を高め、子ども一人一人の課題に対する的確な支援を行う

学校は子どもたちを育てる場所であると共に、地域の人々の命を守る場所

教職員の危機管理能力— 命を守りきる力

ねばり強い努力をする子（努力はうそをつきません）

★No.1 校内研究の充実（キャリア教育）

全教職員が

- 学びが、伝統になるような研究を。
- 学びが、子どもたちの生き方に通じるような研究を。
- 学びが、本校教育目標

「人と地域を大切に、いきいきと学ぶ子どもの育成」
につながる研究を。



研究で付けている力が、他教科に良い影響を与える
研究で付けている力が、学校生活に良い影響を与える
研究で付けている力が、子どもたちの生きる力を高めている



全教職員で、研究の成果を確かめ合い、喜び合うことができるように

★No.2 学習に向かう集団作り

学びのルールの徹底—錦林スタイルの統一と充実

・話し方・聞き方の型（話したい・聴きたい・考えたい）

学習環境の工夫と整備—すべての子どもたちが、心地よく学べるように

- ・黒板上の壁面
- ・学級目標・学年目標を掲示する場所
- ・提出用の入れ物など、整然とした教室環境
- ・黒板の文字（緑色と茶色は控える・協調するとき黄色がよい）
- ・板書で1時間の流れがわかるように

★No.3 錦林の学校教育の伝統を大切にす

・地域の協力・志を大切にできる子どもを育てる

学校運営協議会の発足以前からの協力体制

・学校教育への協力体制の厚さ

1年生からつながる学習・協力してくださる地域の方々

・図書館教育の伝統・放課後まなび教室の功績

★No.4 ICT 教育の充実 発展的な使い方

効果的な活用をカリキュラムの中で計画

すべての子どもたちが活用できるように

★No.5 家庭学習の充実

家庭での自学自習の習慣

学年間の統一

低・中・高学年間の話し合い

六年間で身に付ける自学自習の力の育成

★No.6 朝学習・昼学習の充実

<企画委員会(学力向上委員会)の設置>

自分や仲間の良さを認められる子

学校中の確かな努力を、確かめ合い、評価し合える学校になるように
人が人間になるための 教育の場である 学校の仕事
主体性と社会性を育む種を蒔きましょう

★No.1 同じ時間に全学年が取り組んでいることを評価し合う

掃除時間 全校合唱

(錦林タイムはなくなりましたが、評価し合うチャンスは計画できます)

学習の足跡(成果)を子どもも大人も評価できるように

仕組みを委員会や各分掌で検討してください。

2 錦林小学校で共に働くことに感謝します

番組小学校の志

地域の方々の思い

「子どもたちのために」 「風と土 その役割」

新洞小学校と錦林小学校の統合を忘れてはいけない

「土」を渡さなければならなかった地域の方々の思い

働くということ

3 これからを見据えた学校運営を皆さんと共に

No.1 企画委員会(学力向上委員会)の設置

月1回 木曜日(掃除なし)

各学年の子どもの様子から

学びのようす 学力向上のための具体策の実施

No.2 快適な職場環境の実現に向けて

★1 日直の仕事(日誌・給食日誌の記入提出)

★2 ゴミ・紙の分別収集の徹底

★3 セット時間 日曜参観までは、午後8時45分
エコデー(金曜日)午後8時

★4 学校予算・資源の有効活用

★5 戸締り・電気

No.3 小中一貫教育など校種間連携の進め方について

★1 六校会(岡崎中ブロック・近衛中ブロック)

「9年間でめざす子ども像」

自主自律 ～地域と共に生きる たくましい子どもの育成～

保幼小連携 白河総合支援学校との連携

No.4 保護者・地域と連携・協働した取組の充実

★1 地域・保護者とのつながり

学校運営協議会

川端警察署・子ども支援センター・児童相談所

錦林小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 学校教育目標の実現を目指した学校教育活動について、その成果と課題を明確にする。
- 児童・保護者・教職員のアンケートの実施結果を公表することにより、学校・家庭・地域の三者で課題を共有し、さらに学校教育が充実するよう意欲を高めていく。

2 重点評価項目

- (1) 学校教育に関すること
- (2) 子どもの学校生活に関すること
- (3) 学校や地域での生活に関すること
- (4) PTA活動に関すること

3 評価手法

- ・児童・教職員・保護者に対してアンケートを実施した。
- ・学校評価支援システムを活用したニーズ調査型アンケートを実施し、評価結果を児童・教職員で比較し分析して公表している。

4 アンケート結果等による分析

(1) あたたかい言葉で話せる子の育成について

<「あいさつができる子」に育っているかということについて>

朝の挨拶運動はもちろん日常の挨拶について、自分から挨拶することを学校全体の取組として、教職員全員で指導している。また地域の方や保護者の方からも挨拶について話していただく機会を設けていることから、年々自分から挨拶ができる児童が増えてきていることが、アンケート結果にも表れている。昨年度の結果と比較しても、アンケートの数値が高くなっている。特に保護者の方の回答において、評価が高くなっている。

目指す子ども像のひとつが「あたたかい言葉で話す子どもの育成」である。挨拶をすること、あたたかいことばで話すというのは、人を大切にするという人権教育に通じる目標として学校全体で取り組んでいる。教職員、保護者、地域の方々がこの「あたたかい」ということを意識してくださっているという成果が、子どもたちの挨拶の姿に表れていると考える。

(2) 錦林の読書活動について

<「子どもは進んで本を読んでいる」ということについて>

重要度と実現度の差や児童自身と保護者との差が毎年大きく表れる項目である。今年度は保護者も児童も同じ割合で高くなっていた。実際の貸出冊数も大きく増え、改善が見られる。長年、図書館教育に力を入れている本校は、教職員だけの取組だけではなく、学校運営協議会を母体とした保護者・地域のボランティア活動のご協力もあり、図書館環境は実に充実している。

その中で子どもの意識が高くなったひとつの理由は、学習の中でも本に多く触れる機会を持ち、読書をする必要が多くなってきたことが考えられる。また、「本の広

場で、子どもたちがリラックスしてページをめくることができる雰囲気があり、守りたい場所だと感じました」と自由記述欄にあったことから、子どもも大人もみんなで大切にしたいことが「読書」であるといえる。

また、全国学力・学習状況調査からも見えることであるが、家庭での過ごし方として、ゲームやテレビの時間があまり長くない。家庭学習をきちんとしているということ、そして図書室から借りてきた本を読んでいるという子どもの姿も見えてきている。

5 自己評価及び学校関係者評価

学校評価実施報告書を参照（30ページ）

6 総括・次年度に向けた課題等

- ・評価項目に、小中相互の評価項目を取り入れることが必要であると考えた。小中一貫教育を進めるうえでも、共に目指すことを、共通の項目として入れて、評価を受けていく必要がある。
- ・引き続き、学校と地域との絆づくりを進め、子どもたちが大人と一緒に社会に貢献できるような活動を進めたい。
- ・中学校ブロック全体としての研修をこれからも重ねて、小・中学校で交流することを通して、本校の児童や地域の実態、教職員のチーム力を高めていく。

平成29年度前期学校評価結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございました。保護者の皆様から協力いただいたアンケートの数は456で、全児童数の約82%のご回答をいただきました。

皆様からいただいたご意見や保護者の皆様及び児童へのアンケートの結果、教職員の自己評価をふまえ、引き続き継続する取組や改善していくべきところを全教職員で共有し、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

【アンケート方法】 アンケートの項目を、

- (1) 学校教育に関すること
- (2) 子どもの学校生活に関すること
- (3) 家庭や地域での生活に関すること
- (4) PTA活動に関すること

のグループに分け、それぞれの項目につき「重要度—実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度、実現度ともに高い項目は、比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

【アンケート結果より】 ～紙面の都合上全項目は掲載できませんので、ご了承ください。～

「よくできている」、「大体できている。」を合わせて「実現度」を表記しています。

◆「(1) 学校教育に関すること」の実現度について

ほとんどの項目に関しては「よくできている」「大体できている」という評価をいただきました。しかし、項目3番の「確かな学力」につきましては87.4%、項目5番「学校に気軽に相談ができる」は87.1%となっております。どちらも実現度が8割強の評価ではありますが、重要度との差を真摯に受けとめ改善につなげていきたいと思っております。学力については、平成32年度の学習指導要領改訂へ向けて、外国語科や道徳の教科化など新しい内容への対応を進めつつ、「基礎基本の定着」を図るためにさらなる授業の工夫や指導の研究など継続して取り組んでいきたいと思っております。また、ご家庭との連絡をしっかりと取りながら、相談しやすい学校の雰囲気作りに努めていきたいと思っております。

	項目	重要度	実現度
1	学校は、めざす学校像(学校愛・地域愛にあふれる学校、あたたかみ言葉が学校中にあふれ確かな努力が見つけられる学校)に向かって努力している。	97.7%	94.0%
2	学校は、子ども一人一人を大切にしたい教育を進めている。	99.8%	92.1%
3	学校は、確かな学力をつけるための教育を進めている。	99.3%	87.4%
4	学校は、地域を大切にしたい教育を進めている。	97.0%	96.0%
5	学校に、気軽に相談ができる。	98.6%	87.1%
6	学校は、学校便りやホームページで学校の様子を伝えている。	97.7%	97.0%

◆重要度が高く実現度が低い、課題と考えられる項目について

(3)-4 「ねばり強く努力する子」に育ってきている。

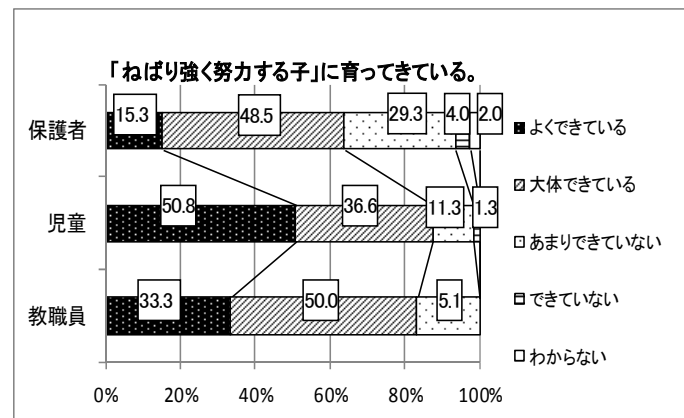
(児童：がんばることを見つけて、努力している。挑戦している。)

(教職員：何事にも挑戦しようとする態度が養えている。)

保護者回答の重要度が100%

近いことに対し、実現度は

63.8%となっております。一方、子どもたち自身と教職員の回答は8割を超えています。日々の学校生活での取組や運動会の練習などで頑張る姿を目にすることがあるのですが、お家の方では外で頑張っている分、そういった姿を見る機会が少なくなるのでしょうか。ただ、やるべき時には最後までしっかりやろうとする姿勢が育っているということは大いにあるのではないかと思います。



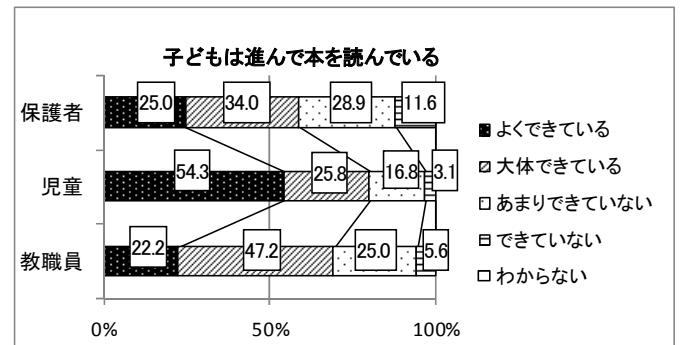
(3)-6 子どもは進んで本を読んでいる。

(児童：本を読んだり、本で調べたりすることが好きである。)

(教職員：読書に興味を持てるような取組をしている。)

この項目も毎年重要度と実現度の差や児童自身と保護者との差が大きく出る項目です。前年度との比較をみると保護者+5%、児童+5%となっております。実際の貸出冊数にも変化があり、前年度10月までの図書館貸出数は4491冊、今年度は6084冊と約1500冊増えています。

これは、今年度は4月初より学校司書教諭が配置されていることにより、早い時期から貸出についての環境が整っていたことや、週一回図書館へ行く時間をとり、じっくりと読む時間、借りる本を選ぶ時間をしっかりと確保できたこと、夏休みの貸出冊数を2冊から3冊へ増やしたことが考えられます。「図書館のディスプレイがとても工夫されている所がよいと思いました。本の広場も子どもたちがリラックスしてページをめくることができる雰囲気があり、守りたい場所だと感じました。」(自由記述欄より)とお声も頂いているように、学校司書教諭や保護者の方を中心とした図書館ボランティアの方々のご協力もあり、本校の読書環境はとても充実したものとなっております。学習の中でも物語り分野だけでなく科学読み物等にも多く触れるような機会を多く持つようにしています。なかなか難しいことではありますが、普段の生活の中に、ゆったりと読書をする時間を持ちたいところです。



(4)-1 家庭では、家庭学習やゲームなど、時間を約束している。

(児童：家庭学習をする時間を決めて自分から取り組んでいる。)

この項目も重要度と実現度の差、保護者－児童の差が大きく出る項目です。これは、「ゲームやテレビの時間を約束している」という質問も含まれていますので、児童への質問項目と比較しにくい内容ではありますが、保護者の方から見ると「もっと

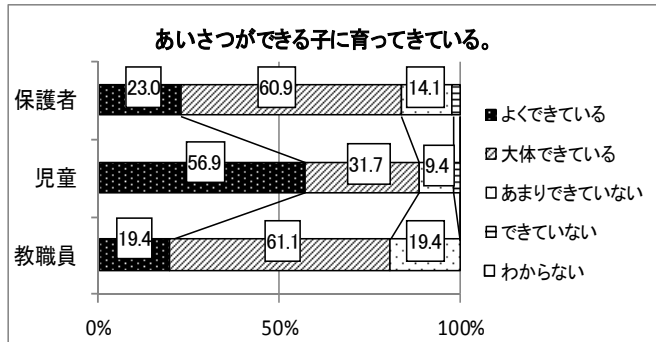
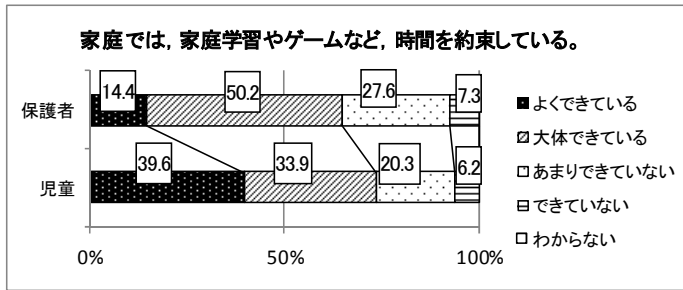
進んでやってほしい。」「宿題以外の学習にも取り組んで欲しい。」と感じておられることが多いようです。学習時間の目安として『学年×10分』または『学年×10分+10分』とよくいわれています。宿題に加えて、読書や図鑑を眺める、絵を描く、何か作る、など、とにかく決めた時間内じつくりと座って何かに取り組むということから始めるのも良いそうです。宿題以外の学習では計算練習や文字の繰返し練習も良いのですが、思考力を鍛えるパズル的な問題集などもたくさん市販されていますので、試してみるのも良いかと思います。学校でも、学習することの意味や学ぶ楽しさを、実感を伴わせながら伝えていきたいと思います。

◆「あいさつ」に関わる項目について

(2)-1 「あいさつができる子」に育ってきている。(児童：自分からすすんであいさつをしている。)

(教職員：気持ちよくあいさつをする態度を育てている。)

朝の挨拶運動や来客時の挨拶についてなど、学校全体で自分から挨拶することについては常々話題にあげ、指導しているところです。また、地域の方や保護者の方からも挨拶についてお話していただいていることから、年々自分から挨拶ができる児童が増えてきていることを実感しています。アンケートの結果にもあらわれており、昨年度前期の結果と比べてみると、「よくできている・大体できている」の数値は、保護者が22.9%・56.8%，児童が55.2%・33.1%，教職員が23.1%，56.4%となっており、数ポイントですが増えています。特に保護者の方の回答が1割近く増えており、自由記述欄にも「朝の見守り活動の際、子どもたちがきちんと挨拶をしてくれたのが印象的でした。数年前に比べ、大きな声を出してくれる子どもが多くて嬉しかったです。」「北ゲート当番の時、昨年に比べてあいさつを返してくれる子どもが多くなったと感じました。」などのご意見をいただいております。今後も引き続き、挨拶の持つ意味や大切さを伝え、日々の挨拶の習慣がつくように指導していきたいと思います。



◆自由記述欄より

・門が開きっぱなしになっているのをよく見かける。不審者対策としてどうなのか?危機感があまりないように感じる。

⇒ご心配をおかけしまして申し訳ございません。昨年度にも同様のご意見をいただき、今年度さらに改善を進めております。登下校の時間帯以外は職員室横の通用門を除くすべての門は基本的に閉めております。(児童の休み時間は運動場との出入りが多いため東側玄関前の東門を開けています。)また、体育館使用の地域の方にも北門の閉門をお願いしております。さらに、北門、東門及び北庭防災倉庫付近の三カ所にセンサー付ライトの設置をいたします。ただ、門の施錠につきましては、本校は来客数が大変多いため、完全施錠をすることがなかなか難しい状況であります。今後も常に防犯意識を持ち、閉門の実施や防犯カメラ等での来校者の出入りに注意をしっかりと向けていきたいと思います。

・『「錦林の地域に育っていることを喜ぶ・誇りに思う子」に育ってきている』という質問の趣旨が理解しにくい。他の学区と比較するというニュアンスなのでしょうか。学校として児童に具体的に何をどの程度求めているのでしょうか。普通に地域や見守り隊の方々などに感謝し、自分の通う学校が楽しいといった意味でよろしいのでしょうか。

⇒本校の教育目標に「人と地域を大切にいきいきと学ぶ子どもの育成」とあります。生活科や社会科、総合的な学習の時間などで地域へ出かけ、地域のことを調べたり、地域の人と出合ったり、地域の方に学校へ来ていただき色々なことをお話して頂いたりすることを通して、地域のことを学んでいます。これらの学習に取り組むことで、自分たちが住んでいる地域の素晴らしさや自分たちを支えて下さっている方々がたくさんいることなどに気づき、自分たちの住む地域を大切に思う心を育てるとともに、これからの自分の生き方について考えることへも繋げていきたいと考えています。これらの学びが普段の生活にどれだけ表れているのかといったことを、保護者の方にお伺いしたいという趣旨でこの設問が設定されたのですが、学校の方で授業を通して見取っていききたいと思います。お応えにくい質問になってしまい申し訳ございませんでした。来年度はこのことも含め、アンケートの内容を検討していきたいと思います。

その他にもたくさんのご意見をいただきました。運動場側の時計が見えにくいというご意見もあり、児童館の壁に設置することになりました。また、給食についてのご意見もいただきましたが、学校だけで対応できないこともありますので、お伝えできるご意見は教育委員会の方へ申し伝えます。

お礼と今後に向けて・・・

今回も多くのご意見をありがとうございました。温かいご意見をたくさんいただき、教職員一同、大変励みになっております。子どもたちが錦林小学校で過ごす日々が、より一層充実したものとなるよう、これからも全教職員で取り組んでいきたいです。また、その他頂いた貴重なご意見につきましても、引き続き改善を図っていききたいと思います。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、錦林教育をよりよいものにしていきたいと考えておりますので、より一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

錦林だより

Kinrin-s@edu.city.kyoto.jp

臨時号

平成30年3月20日
京都市立錦林小学校
校長 中澤 明美

平成29年度後期学校評価結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございました。およそ81%の回答をいただきました。皆様からのご意見、また児童へのアンケート結果、教職員の自校評価をふまえ、継続していくべきところ、改善していくべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

【アンケート方法】

前期の実施同様、アンケートの項目を（1）学校教育に関すること（2）子どもの学校生活に関すること（3）家庭や地域での生活に関すること（4）PTA活動に関すること のグループに分け、それぞれの項目につき「重要度—実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度、実現度ともに高い項目は、比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

【アンケート結果より】（全項目は掲載できませんので、ご了承ください。）

「よくできている」と「大体できている。」を合わせた数値を「実現度」と表記しています。

◆「（1）学校教育に関すること」の実現度について

		前期	後期
1	学校は、めざす学校像(学校愛・地域愛にあふれる学校,あたたかい言葉が学校中にあふれ確かな努力が見つけられる学校)に向かって努力している。	94.0%	95.6%
2	学校は、子ども一人一人を大切にされた教育を進めている。	92.1%	92.7%
3	学校は、確かな学力をつけるための教育を進めている。	87.4%	89.4%
4	学校は、地域を大切にされた教育を進めている。	96.0%	96.5%
5	学校に、気軽に相談ができる。	87.1%	88.0%
6	学校は、学校便りやホームページで学校の様子を伝えている。	97.0%	96.4%

多くの項目において前期よりも高い評価をいただきました。特に「よくできている」との評価を比較すると、ほとんどの項目で10%の上昇がみられました。年間を通じて学校・担任と家庭、

地域の関わりが深まり、子どもたちの成長を通して学校の取り組みについて、深くご理解いただけているのではないかと感謝しております。ただ、項目の3及び5につきましては80%台と、他項目と比べて少し低く今後の課題としてしっかりと校内でも共有し、次年度に繋げていきたいと思っております。

◆「（2）子どもの学校生活に関すること」の実現度について

1 「あいさつできる子」に育ってきている。 (児童：自分からすすんであいさつをしている。) (教職員：気持ちよくあいさつする態度を育てている。)		前期	後期
	児童	88.6%	90.8%
	保護者	83.9%	85.1%
	教職員	80.5%	76.4%

登校時の見守り隊の皆様や地域の方々に日々声をかけていただいていることや、ご家庭でのお声かけ、学校での取り組みなどが生き、年々しっかりと挨拶ができる児童が増えてきているように思われます。自由記述欄に、見守りも兼ねてお子さんと一緒に登校されている保護者の方から「門のところで初めて会った児童から元気よく朝の挨拶をしてくれることが多い。とても素晴らしい児童が多く感心している。我が子も大きな声で挨拶する姿をみて嬉しく思っている。」と書いてくださっていて、学校としても大変嬉しいです。しかしながら、朝の登校の様子を見ていると、地域の方に声をかけていただいているのに、小さい声で挨拶をしていたり、無言で通り過ぎたりしている子どもたちも見られます。これからも、きちんとできている子どもたちをしっかりと褒め、子どもたちの間でも進んで挨拶をすることのよさが広がっていくように取り組んでいきたいと思っております。

7 子どもは進んで本を読んでいる。 (児童：本を読んだり、本で調べたりすることが好きである。) (教職員：読書に興味を持てるような取組をしている。)		前期	後期
	児童	80.1%	84.6%
	保護者	59.0%	62.2%
	教職員	69.4%	63.2%

この項目は毎年実現度が低い項目ですが、図書館の本の貸出総数を前年度と比較すると、全学年増加しています。「おはなしパレット」の皆様による、毎週火曜日の読み聞かせの取組や学校運営協議会図書活用部会・本校の司書教諭による図書館や本の広場の環境整

	平成28年度	平成29年度
1年	2,290	2,945
2年	1,413	1,922
3年	1,099	1,727
4年	1,277	1,614
5年	918	985
6年	816	982

備、校内での図書委員会による図書イベント等により、図書館へ行き本を手取る機会がかなり増えてきたと考えられます。また、各学年でも国語の取組を通して様々なジャンルの本に触れる機会を持つことも続けています。貸出冊数の増加が進んで本を読む子の数の増加に直接つながるかどうかはわかりにくいところですが、本に興味を持つ子どもが増えていくとみることのできるのではないかと思います。学年別でみるとやはり高学年になるほど貸し出し冊数が少なくなる傾向にあります。高学年ほど一冊にかかる時間が長くなることや、校内での役割も多くなり休み時間に図書館に行く時間が減るなど、図書館へ行く機会が減っていることも考えられますが、学年が上がっても、低学年でみられるような本への興味が持続するように今後も様々な取組を考えていきたいと思ひます。(自由記述欄より「本の広場はとても素晴らしいところだと思ひます。子どもたちがそれぞれ自由に本を広げられる点と、本のディスプレイが魅力的で、本を手取る機会を増やしていると思ひます。)

5 「ねばり強く努力する子」に育ってきている。 (児童：がんばることを見つけて、努力している。挑戦している。) (教職員：何事にも挑戦しようとする態度が養えている。)		前期	後期
	児童	87.4%	91.3%
	保護者	63.8%	70.9%
	教職員	83.3%	79.2%

この項目も全体と比較して実現度の数値が低く課題とみられる項目ではありますが、児童・保護者ともに後期の結果が少し増加しています。子どもたちは大きな行事を経験するたびに達成感とともに自信をつけ成長しています。自由記述欄に「学芸会で和太鼓をしていたが、子どもの生き生きとした姿にとっても感動した。私生活でもその変化が出ていた。この達成感などが学習にもつながっていったらいいなと思ひました。」と書いていただいております。これら学校・学級という集団の中だからこそできる経験を通して「努力は必ず何らかの形で報われる」ということへ結びついていったらいいなと思ひています。

◆「自由記述欄より」～その他たくさんのお貴重なお意見をいただいております。～

※紙面の都合上、全ての記述について掲載できないことをご承知ください。

- ・兄弟がいるので参観・懇談会にゆっくり参加できない。一度試験的に、高学年・中学年・低学年または高学年・低学年と分けて実施していただきたく思ひます。

⇒年度初めの四月の授業参観・懇談会は2・4・6年生とゆめいろ・1・3・5年生の2日に分けていますが、それ以降は全て同日に実施しておりました。じっくり授業参観や懇談会へ参加したいというお気持ちがありたく思ひます。しかし、参観日を別日にするとお仕事をされている方は2日間休みを取る必要がでてしまうというご意見もあるようです。来年度の検討事項の一つとして校内で検討していきたいと思ひます。

- ・校門のセキュリティーが心配です。

⇒本校は実に来校者が多く、地域の方や保護者の方に気兼ねなく来校していただくためにも完全な施錠は難しいのですが、以前よりご意見をいただいております。学校側も気になっている点でありましたので昨年度後半より改善を進めております。施錠までは致しませんが、登下校時以外はすべての門を閉めております。(東側職員室勝手口前の門は開けております。また、東門のみ中間休みと昼休みの時間は開けています。)また、北門及び東門、体育館裏2カ所に人感センサー付のライトを設置いたしました。これら環境面での整備に頼りすぎることなく、今後も「人の目」でしっかりとセキュリティーに気を配っていきたく思ひます。

- ・安全面を考慮して、毎日規則正しく下校させていただくと有難いです。

⇒授業の開始終了時刻は全校統一できていますが、授業終了後の「帰りの会」の時間が学級によって違っていることがあり、ご心配をおかけしている面もございました。大変申し訳ございませんでした。終学活の時間もクラス作り・人間関係作りの大切な時間と捉え、時間が長かかってしまうことがあるようでした。来年度は授業終了時刻とその後の終学活の時間も含めて、学年ごとにしっかりと統一していきたいと思ひます。また、放課後に残って学習を行う場合も、ご家庭と連絡をしっかりと取ったうえで行っていくことを原則としていきたいと思ひます。

【お礼】今回も多くのご意見をありがとうございました。温かいご意見をたくさんいただいたことは、大変励みになっております。今年度はアンケートの在り方についてもご意見をいただいております。来年度はアンケートの項目を再考していきたいと考えています。皆様のご意見がより反映されやすいもの、また、保護者・児童・教職員のアンケート項目の関連性がより高くなるようなアンケート項目の設定を行っていきたく思っております。

子どもたちが錦林小学校で過ごす日々が、より一層充実したものとなるよう、これからも全教職員で取り組んでいきたいです。本紙に掲載させていただいたご意見以外にもたくさんのご意見をいただいております。2月28日(水)の学校運営協議会でも学校評価アンケートの結果を議題の一つとして取り上げ、ご意見をいただいております。これら学校評価についての結果やご意見は校内でも共通理解を図り、引き続き改善を進めていきたく思ひます。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、錦林校での教育をよりよいものにしていきたく思っております。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。



(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標	<p>①学びのルールの徹底から、錦林スタイルの向上へ ②学習環境の改善から向上へ ③錦林の学校教育の伝統を大切にする ④家庭学習の充実</p>
具体的な取組	<p>①学びのルールの徹底から、話し合い活動の充実へ めあてから始まり、話し合い活動を取り入れ振り返りで終わる「錦林スタイル」の型の徹底はもちろんであるが、話し合い活動の向上を目指したい。多様な観点から考察した自分の考えを表現し、1時間の授業での話し合い活動の充実が学校生活の向上につながるようにしたい。</p> <p>②学習環境の改善から向上へ すべての子どもたちが心地良く学ぶことができる学習環境づくりを昨年度徹底した。すべての教室で「錦林スタイル」の掲示場所・黒板上の壁面・両サイドの壁面の使い方を統一することで、すべての子どもたちが、どの教室でも安心して落ち着いて学べる環境づくりを心掛けた。チョークの色の配慮なども実行できた。今年度はさらに、学年の掲示板に「学びの足跡」を残し(作品だけでなくノートなど授業の様子が伝わるもの)、全校でそれぞれの学年の学びの姿を知り、評価し褒め、教え合うことを意識する。学校丸ごとが「学びの環境」となるようにする。</p> <p>③錦林の学校教育の伝統を大切にする。 キャリア教育の研究を中心として、「地域の協力や志を大切にできる子ども」を育てる。すべての学年が地域の伝統や文化の奥深さに気付く学習を展開していく。錦林の学びの伝統である国語教育・図書館教育や情報教育を土台としての研究を進める。</p> <p>④家庭学習の充実 昨年度から自学自習を各学年で家庭学習の目標のひとつとしている。今年度はさらに、学力向上委員会を月に一度設定し、子どもたちの学びの成果と課題について、数値を基にPDCAサイクルが展開できるようにする。そして授業と家庭学習が連動できるようにして「価値ある自学自習の習慣」がつくようにしていく。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査 ・家庭学習をする時間を決めて自分からとりくんでいる。(児童アンケート) ・学校は、確かな学力をつけるための教育を進めている。(保護者アンケート) ・子どもたちに学習規律を身につけさせている。(教職員アンケート)
各種指標結果 (1回目)	<p><全国学力・学習状況調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で自分の考えを発表する機会」「授業で学級の友達との間で話し合う」「自分の考えを説明したり、文章に書いたりする」など話し合い活動の充実に関する項目はすべて、全国平均を10%から20%上回っている。 ・「総合学習で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表する」「地域の事を調べたり、地域の人と関わったりする」など、キャリア教育を校内研究の柱として、地域とのつながりを大切にしながら学びの伝統を築く観点においても、10%以上全国平均を上回っている。 ・家庭学習については「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で宿題をする」など、ほぼ全員が実施できている。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究(キャリア教育)を柱として、話し合い活動の充実、探究的な学習の充実の成果が出てきている。昨年度、課題であった書くことについても、すべての学級が1時間の授業に必ず自分の考えを書くことを取り入れているため、徐々に力を付けている。 ・家庭学習の充実を年度当初から全学年で話し合い「自主学習」も取り入れて、基礎学力の充実と自ら学ぶ力の育成に取り組んでいる。家庭学習の習慣はできている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の充実だけに重点を置くと、「基礎学力の獲得」の時間がおろそかになっている場合がある。1時間の授業のめあてを全員が達成できたかどうかを丁寧にみる必要がある。 ・家庭学習の習慣から充実を図るための、内容の改善が必要である。

	分析を踏まえた取組の改善 <基礎学力の向上> ・基礎学力向上を算数と漢字で図りたい。(毎日算数プリント・漢字検定への取組) <放課後まなび教室との連携> ・自主学習の内容の検討をスタッフの方々と話し合い、決定・実施を早急にする。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <学校運営協議会の学び支援部会・伝統文化部会> ・今後も地域の人との出会いから学ぶ研究に協力する。そのために、人材の確保に向けて協力する。 ・放課後まなび教室と児童館との連携 放課後まなび教室と自主学習の内容を学校とともに検討・実施する	
	評価日	平成29年10月11日
	評価者	学校運営協議会
各種指標結果(2回目) <プレジョイントプログラム・ジョイントプログラム> ・授業や家庭学習などの成果が出ていると考えられる学年もあるが、基礎学力定着の不十分さが見られる部分もある。		
自己評価	分析(成果と課題) <成果> ・研究を柱として、全クラスのすべての授業の中で充実した話し合い活動を目指してきた。思考ツールなどの活用、ワークシートの工夫など、全クラスとも真剣に授業を受けている。 ・家庭学習の工夫を全学年で実施している。自学自習の定着やマイプリント(高学年)での効率の良い学力定着システムなど工夫した家庭学習が実践できた。 ・放課後まなび教室での自学自習の向上の成果が見られる。 <課題> 学年が上がるにつれて、低学年での学びの積み残しが、学力向上に影響するため、低学年からの基礎学力の定着が必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善 <基礎学力の定着のための取組> ・毎日の算数プリントの継続など、学年の枠を超えた学習内容での定着を図る工夫が急務である。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <学校運営協議会> ・地域とのつながりが深まる授業が、子どもの心を育てることは勿論のこと、地域と学校との絆が強まっていることを実感している。これからも協力していきたい。 ・挨拶をする子どもが増えている。学習を通じてのつながりの成果である。 <放課後まなび教室との連携> ・自学自習を目的の一つとする放課後まなび教室のスタッフの方々と、自学自習の内容も含めて話し合うことがこれから必要となると考える。	
	評価日	平成30年2月28日
	評価者	学校運営協議会

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 生きる力の育成に向けて、あたたかい言葉を通して、豊かな人権感覚を育む ～学年をこえて認め合える学校、本当にあたたかい学校を目指して～
具体的な取組 ①人権意識を高める取組の実践 「あいさつをする心」「そろえる心」の徹底。 <u>学年をこえて認め合えるうるおいのある学校づくり</u> の実践。掲示板の利用や委員会活動を通して、子どもたちの良い所を見つけ評価をし合う機会を教職員が率先して意識して実行する。 ②道徳教育・特別活動の充実 キャリア教育の中に道徳教育・特別活動を位置付けて、道徳の授業での学びが実生活に生きるように児童会活動の取組も充実させていく。 ③生徒指導においては「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った教育」を大切にする。 いじめアンケート・クラスマネジメントシート・個人面談(4年以上)を実施、活用していく。支援の必要な子どもや家庭に対しての福祉・保健・医療など支援機関との連携を大切にする。

<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかいことばではなすようにしている。ともだちやじぶんのいいところを見つけようとしている。じぶんからすすんであいさつをしている。(児童アンケート) ・「あいさつできる子」に育ってきている。「人を大切にできる子」に育ってきている。(保護者アンケート) ・人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている。良いところを見つけて高め合う集団づくりを大切にしている。気持ちよくあいさつをする態度を育てている。(教職員アンケート) 	
<p>各種指標結果(1回目) 学校アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつができる子」に育ってきている。(89.9%) 毎朝地域の方の見守り・PTAのみなさんの北ゲートでのあいさつ運動などにより、挨拶を自分からする児童が増えたと感想を多くいただいている。 ・「人を大切にできる子」に育ってきている。「学級だけではなく多くの友達と関わろうする子」に育ってきている(97.3%) ・児童会のたてわり活動の充実、異学年交流を学習の中にも位置づけたことが、自然と子どもたちをつないだと思われる。 	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の大切さを伝えるためには、まず教職員・保護者からと考えた。PTA活動(全員が輪番で北ゲートでの朝の安全指導)の実施から2年を迎え、保護者からも手応えを感じるとの感想をいただけたことは大きな成果である。 ・まず相手を見て言葉をかけ、頭を下げるという挨拶の基本形を全学年が「装道」という研究の一環で学習をした。それを毎時間、授業のはじめと終わりで実践。その成果もでてきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかい挨拶からつながる「あたたかい人間関係」はこれで良いというゴールはなく、日々学びの連続である。評価し合い高め合える教職員を育てる事で、学級の子どもも育つのだと考える。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p><細やかな評価の実施></p> <p>出来ていること、努力が成果に繋がったことを、全教職員で具体的に評価し合う機会を増やすため、人権掲示板の有効活用を重点的に実施。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね高い評価となっているが、甘んずることなく継続する事、評価し合う人間関係の構築を目指したい。 ・人権に関する掲示物を「錦林ふれあいまつり」(地域とPTAと学校との取組)でも実施(昨年度から)
	<p>評価日 平成29年10月11日・12日</p> <p>評価者 学校運営協議会・PTA役員</p>
<p>各種指標結果(2回目)</p> <p><学校評価アンケート></p> <p>「子ども一人一人を大切にした教育を進めている」(95.6%)</p> <p>「学校は地域を大切にした教育を進めている」(96.5%)</p> <p>「学校はあたたかいことばが学校中にあふれ、確かな努力が見つけられる学校になるように努力している」(95.6%)</p>	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化を人とのつながりから学ぶ研究を中心とした学びを継続したことで、人との出会いを大切にしたいと思う子どもが育ってきている。 ・たてわり活動を充実したことから、学校の中でも人との絆を自分から大切にしたいと思う子どもが育っている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかい人間関係を築いていくことにゴールはなく、これからも日々子どもも教職員も、あたたかいということの本質的な意味を大切にしながら、教育活動を行う学校でありたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認め合う集団づくり」が目に見える、互いに確かめ合える工夫をしていきたい。 <p>人権掲示板のさらなる活用を実行したい。</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	評価日 平成30年2月28日	評価者 学校運営協議会
	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする子ども、話す子どもなど、地域の子どもの地域で育てていることが実感できている。 ・錦林小学校が昔から続けている読書活動や見守り活動が、今の子どもたちの成長にもしっかりと成果として出ていることが嬉しい。 ・「子どものために」ということで、これからも学校と保護者と地域はつながっていききたい。 		

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	生きていることを当たり前とせず、命を大切に人生を生き抜く心と体の育成		
具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> ① 人と人とのつながりを重視した学習や取組について、研究を中心に充実し、地域で安心安全に生きていることに感謝するとともに、自分たちが安心安全な地域を作る担い手であることの自覚を育てる。(道徳教育・人権教育の充実) ② 「自分の命は自分で守る」という意識を高める安全教育・防災教育の実践。学校は子どもたちを育てる場所であるとともに、地域の人たちの命を守る場所であることの認識を深め、教職員の危機管理(命を守りきる)力を高める。(教職員の実践力を高めるための研修や訓練の実施) ③ 学校給食を生きた教材とした「食に関する指導」の推進や、学校生活が安心安全であるための具体的・実践的な研修の実施。 ④ 家庭との連携を充実し、より良い生活習慣の構築のための取組の継続と分析。生活習慣アンケートの分析を発信しさらに向上するための計画を実行する。放課後の遊び場の確保などPTAとの連携で実行する。 		
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査から ・学校のきまりをまもっている。地域の行事や取組に参加するようにしている。(児童アンケート) ・「安全に気をつけて命を守る子」に育ってきている。早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣の大切さを伝えている。(保護者アンケート) ・きまりやルールを守ろうとする態度が養えている。(教職員アンケート) 		
各種指標結果(1回目)	<p><全国学力・学習状況調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」の項目で、ほぼ全員の児童が人権的に高い意識を持っている。また「家族と将来のことについて話す」「将来の夢や目標を持っている」という項目も、全国平均を10%近く超えている。 <p><学校アンケート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きまりやルールを守る」(90.2%)と決意している児童はほぼ全員であるが、「安全に気を付けて命を守る子どもに育ってきている」についての保護者の回答は8割となった。(86.7%) 		
自己評価	分析(成果と課題)	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期の休みの後(年間3回)生活習慣アンケートの実施で、休み明けの基本的な生活習慣の乱れはほとんどなくなってきた。(保護者も共に取り組むアンケートの効果) ・学校の決まりを全員が守らねばならない意識は浸透している。(名札の着用・持ち物の徹底) ・支援を要する児童への対応を全員で意識できている。(休み時間などの教職員体制など) ・道徳教育(地域教材)の充実が図られている。 	
	分析を踏まえた取組の改善	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに自分のいのちを守る、人の命を守る大切さを日々の学習で伝えていかなければならない。 ・学校の安全の確保(危機管理意識の向上)、施錠の徹底を、教職員・地域・保護者共に強化する必要がある。 ・下校時間の安全を確保するための取組 	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 (学校運営協議会(安心安全部会), PTA地域委員会) 下校時の安全確保のために声掛けできる方々の募集(午後4時から5時半ごろ) (保健指導・食教育に係る地域との連携) 系統立て、連携した学習内容の検討	
	評価日 平成29年10月11日・12日	評価者 学校運営協議会・PTA役員
各種指標結果(2回目) 「学校評価アンケート」自由記述から ・施設などセキュリティの向上に感謝している ・すべての先生方が、大変熱心にかかわって下さっている ・下校時間を守ることを進めてほしい		
自己評価	分析(成果と課題) <成果> ・安全対策を早速実施したことで、安全意識の向上となった。 ・全教職員が同じルールで子どもたちに指導をすることの成果が出ている。 ・一人一人の特性を理解し、みんなが心地よく生きていくことを確認し合っている。 (道徳・特別活動などの学習や活動を通じて学ぶことの充実) <課題> ・下校時間を守ることの徹底 ・下校中の安全対策	
	分析を踏まえた取組の改善 ・命を守り切る教育、すべての人が健やかに過ごせることの大切さを、これからも授業実践で追求していく。 ・下校の安全確保が課題である。交通安全、不審者からの安全確保など、自分が気を付けることや地域や保護者の活動で支える事を具体的に進めたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 (学校運営協議会にて) ・下校中の子どもたちの安全を確保するために、保護者や地域の人に呼び掛ける活動を実践したい。 ・交通ルール、マナーは大人が子どものお手本とならねばならないという啓発をしたい。	
	評価日 平成30年2月28日	評価者 学校運営協議会

(4) 学校独自の取組

※取組の詳細等は、学校経営方針を参照 各種指標結果(1回目) 学校アンケートより ・「めざす学校像に向かって学校は努力している」(93.9%) 保護者の方からの評価である。「ホームページが学校便りで学校の様子を伝えている」(96.9%) と共に、子どもたちの姿を伝えて、目指す子ども像に近づける努力を教職員全員がしていることを今後とも伝えていきたい。		
自己評価	分析(成果と課題) ・「学校は子どもたちひとりひとりを大切にした教育を進めている」(92.1%)と高い評価をいただいているが、一方で「学校に気軽に相談ができる」(87%)とやや低くなっていることを真摯に受け止めたい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・全教職員間での連絡・報告・相談は密にしているが、学校に相談して一緒に考えていくことが、子どもにとって一番大切であるということを、これからも発信していきたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・PTAの役員会や学校運営協議会では、概ね高い評価をいただいているが、甘んずることなく、すべての子どもたちが、学校の目標を大切にできているのかどうか、目指す学校像を常に意識して、評価し合う人間関係を構築していきたい。懇談会や家庭教育学級などでの内容も今後検討していきたい。	
	評価日 平成29年10月11日・12日	評価者 学校運営協議会・PTA役員

<p>各種指標結果（２回目） （学校評価アンケート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像に向かって学校が努力している（９５．６％）と高い評価をいただいている。 ・学校は学校便りやHPで学校の様子を伝えている（９６．４％）が、「学校に気軽に相談ができる」の項目が（８８％）となっている。子どものことを保護者の方々と共に話し合える学校を目指すためにも、この結果を真摯に受け止めたい。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題） （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びを通じての地域の方々とのつながりがこの３年間で太く強くなったことを実感する。 ・子どものためにということを保護者・地域の方々と共有しているということが実感できる。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものことを今まで以上に伝える努力をしていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習がこれからの実践できるように、引き継いでいく事を大切にする。 ・子どもの様子，学校の様子がさらに伝わるように，お便り，HPの充実を図る。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものためにということで，PTA活動と学校との連携が充実している。子どものために役立つことをしたいという保護者の願いがかなうPTA活動になっている。
	<p>評価日 平成30年2月28日</p>
	<p>評価者 学校運営協議会</p>

学校評価のねらい 子どもの豊かな学びと育ちを実現するために、学校と家庭・地域が双方向の信頼関係のもとに情報や課題意識を共有し、改善するために学校評価を行う。評価結果から、成果や課題を分析し、学校改善に生かす。

	評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4 教育指導計画書の作成		
	5 学校評価の実施に向けての評価項目の検討	学校運営協議会発足式	学校だより・HP で教育方針・評価計画を公表
	6	第1回開催 学校運営協議会 学校教育方針の説明	
	7 第1回自己評価の実施 (児童・保護者・教職員)		
	8 評価結果の分析 改善策の検討		
	9 今後の方針の検討 運動会 保護者アンケート(任意)	第2回開催 学校運営協議会による 評価の実施 (学校関係者評価)	
	10		学校だより・HP で結果改善策を公表
	11 学習発表会 保護者アンケート(任意)		
	12 第2回自己評価の実施 (児童・保護者・教職員)		
	1 評価結果の分析 改善策の検討		
	2	第3回開催 学校運営協議会による 評価の実施 (学校関係者評価)	
	3 次年度の方針 共通理解		学校だより・HP で結果改善策を公表

統合してよかったという実感を 児童・保護者・地域・教職員が持てるように
～本年度は、挑戦の第一段階～

★ 開校初年度にあたり ★

□「下京雅小」の置かれた状況とミッション

- ・ 番組小学校としての歴史を持つ2校の統合⇒平成の番組小学校「下京雅小」に。
- ・ 私たち教職員が子ども達と歴史を作る。私たちの前に道はない。私たちの後ろに道ができる。

□物事の捉え方「壁と見るか 道と見るか」

- ・ 子ども達の課題は成長の可能性であり、伸びしろである。そこに「私たちが関わる教育の意味」がある。私たち教育に関わる者自身の指導の課題であるという意識を持つ。
- ・ 「壁」を「道」にするには、組織で支えあうことが必要。

□かけがえのない1年～新校舎で生活できない子ども達（4年以上）がいる～

- ・ 3年後は、最新の教育環境になるが、新校舎で学べない児童がいる（4年生以上の学年）。託された教育環境の下、「教職員の志の高さ」で豊かな教育を子ども達に保障する。

1. 学校教育目標

「伝統と文化、歴史を受け継ぎ、自ら未来を切り拓くことができる子どもの育成」
～ 探究 ふれあい 誇り ～

2. 目指す子ども像 ～いつでも・どこでも・だれに対しても同じ態度～

- ・ 友達や地域の人といっしょに学習すると楽しい。
- ・ 地域には、不思議な所や有名な所があるな！
- ・ 地域の人たちから大切にされている！

ふれあいを大切にする子ども

探究する子ども

- ・ 不思議だな？調べてみたいな。
- ・ どのようにしたらできるの？
- ・ だれに聞いたら分かるのかな？
- ・ どのようにまとめればいいのか？



誇りをもてる子ども

- ・ 学校の友達が大好きだ！
- ・ 下京雅小学校は素敵な学校だよ！
- ・ 地域の人々が大好きだ！
- ・ 自分に少し自信がもてるようになった！

3. 下京雅教育の教育構造 ～「人権教育の4つの視点」で構造化する～

- ・ 「人権としての教育」⇒教育を受ける権利・学力向上
- ・ 「人権を通しての教育」⇒規律ある雰囲気・人間関係
- ・ 「人権についての教育」⇒理解と認識の深化と行動力
- ・ 「人権のための教育」⇒人権という普遍的文化の担い手の育成

4. 下京雅教育の内容 ～カリキュラムマネジメント
- ・「何ができるようになったのか」という視点でカリキュラムを考える。
 - ・「カリキュラムマネジメント」による教育内容を教科横断的な視点で組織的に編成する。
 - ・地域や専門家、教育機関から学ぶ豊かな出会いを設定する。
5. 下京雅教育の2つの判断基準
- ①「子どもの人権」という視点
 - ⇒「こどもたちの命・こころ・生き方」を大切にしているのか。
 - ②「社会というものさし」という視点
 - ⇒「社会で許されないことは学校でも許されない！」
6. 下京雅小のめざす組織 ～同僚性に基づく「強さ」と「賢さ」と「しなやかさ」～
- 一人の教職員の喜び・悲しみ・苦しさは、私たちみんなの喜び・悲しみ・苦しさである。
 - 「チーム教育」⇒学年主任がマネジメントし、学年がコアとなる。⇒そろえる
7. 私たちの人権感覚を磨く ～「尊敬」～
- ・お互いにかけてあげのない存在として相手を受け入れる。
 - 教職員⇄子ども、教職員⇄保護者、教職員⇄教職員
8. 私たちの専門性を磨く・自己を磨く
- ・それぞれの職種における専門性を高める。(経営・学習・食・健康・経理・教育環境)
9. 私たちの子どもを見つめる目を育てる
- ・登下校時の児童の姿や校内での移動時の児童の姿から、「育てることができている」とことと「育てきれていないこと」が見える。
 - ・無人の教室の姿(移動時・下校後)は、子どもがいる時よりも子どもの姿を如実に伝える。
10. 私たち自身が環境であるという自覚を高める
- ・社会人として、教育に関わる者としてのモラルやマナー
 - ・服装(日常・参観日・儀式)や言葉づかいが教育環境であるという自覚
11. 私たちの「トラブル対応の基本」～スピード・本質・やり切る～
- ・日常の誠実な教育による信頼関係が土台となる。
 - ・迷う時は行動する。最悪の状況を想定する。特に金曜日のトラブルは対応が難しい。
 - ・主訴の明確化⇒相手が何を訴えているのかを明確にする。
12. 授業づくりへの意識を高める ～主体的・対話的で深い学び～
- <前提>質の高い学習集団を育てる。支えあい、学びあう学習集団を目指す。
- ・論理的思考力・判断力・表現力という資質・能力を育てる授業を構築する。
 - ・質の高い授業は、「豊かな子ども理解」「深い教材研究」「確かな指導力」が必要。
 - ・公開授業を重視する。他者から見られることにより成長する。

下京雅小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 統合1年目にあたり、統合してよかったと児童・保護者・地域・教職員が実感できることを目指した下京雅教育について、その成果と課題を明確にする。
- 各種評価を分析することにより、下京雅教育の充実と改善を目指す。
- 児童・保護者・地域対象にアンケートの実施・結果の公表を通じて、三者それぞれが「評価者」としてだけでなく、下京雅教育を推進する「参画者」として協力・連携していく。

2 重点評価項目

- (1)「確かな学力」の育成に向けて
論理的思考力，判断力，表現力を育てる。
- (2)「豊かな心」の育成に向けて
命・心・生き方を大切に，自他を真に大切にする。
- (3)「健やかな体」の育成に向けて
体を動かすことを楽しみ，情緒面や知的な発達を促し，コミュニケーション能力を育む。

3 評価手法

- ・保護者，児童及び教職員に対するアンケート調査を実施した。全国学力・学習状況調査やプレジョイントプログラム・ジョイントプログラムの各種結果等を評価のための資料とした。
- ・評価結果については，全教職員で共有化をはかり，以後の教育実践に生かすと共に，学校運営協議会において諮問を受けた。

4 アンケート結果等による分析

(1) 学力向上に向けた授業改善について

「約95%の児童が学校の授業はよく分かる，大体分かる」と回答している。
これは，以下の3つの項目について，日常の授業を大切にして質の高い授業をするという取組を通じて，授業者の意識が高まることで，授業の質が高まり，結果として分かる授業につながったと考えられる。

(授業改善のために取り組んだ3つの項目)

- ・「主体的・対話的で深い学び」というキーワードで45分の授業における児童の姿を共有して授業研究を学校全体で進める。
- ・「めあて」と「ふりかえり」を位置づけ，学習の目的を意識することとめあてに沿って振り返る活動を大切にする。
- ・学習を進める際に，めあてを解決するために「一人学び」「二人学び」「グループ学び」そして「全体学び」という授業スタイルを学校組織として意図的に位置づける。

(2) 家庭学習について

家庭学習や自学自習について、前期アンケート結果では、高学年（約75%）より低学年（約95%）の児童の方ができているという意識は高かった。しかし、保護者や教職員は課題として捉えていた。後期の結果は、前期には70%を越える児童が「よくできている」と回答していた低学年児童が58%まで低下した。家庭での読書の習慣についても、低学年も高学年も前期より実現度が下がっている。

家庭学習の習慣がしっかり身につくように、子どもたちへの肯定的な声掛けを保護者の方々にも協力していただき、取り組んでいきたい。また、家庭における読書については、自分自身で深く考える力を身につけるためにも大切であることを改めて保護者の方々に伝える必要がある。

5 自己評価及び学校関係者評価

学校評価実施報告書を参照（45ページ）

6 総括・次年度に向けた課題等

児童の「挨拶」については、意識は高まってきているものの、実際にはまだまだ相手に伝わる挨拶とは言えない。「しているつもり」で終わらないように徹底していく必要がある。

保護者は、「お互いの良さを認め、自分も周りの人も大切にしている」ことや「あいさつ」についても結果的に「だいたいできている」と回答しているため、「できている」ことになるが、徹底して意識をしているわけではないことに課題がある。

学校アンケートの中で家庭における取組項目に対して、「できていない」という分析結果が多いことから、保護者が主体的に取り組んでいくべき点があるということでもある。子どもに任せる部分と、親が責任をもって取り組んでいく部分が意識できるように学校が働きかけていく必要がある。

「健やかな体」の育成については、保護者の意識改革が必要なのではないだろうか。おやじおふくろの会では、親子で一緒に楽しめることを計画して、今年度は体を動かして遊ぶことを中心としての取組を企画した。参加者は、その場で親子の会話が弾み、また、家庭では見られない子どもの姿を見ることができる。我が子以外とのかかわりももてるため、次年度もより良い取組をしていきたい。

やってもらうことに慣れている子どもが増えてきている昨今、「ありがとう」の感謝を伝えることで、互いを認め合い、励まし合える人間関係が築いていけると考える。今一度、他人を思いやる心や相手に寄り添う気持ちなどについて考えられるように働きかけていく必要がある。

開校2年目は、意図的、意識的に情報公開をして、開かれた学校づくりをしていく。そのためには、学校と地域、保護者が協力していくことが大切である。更に学校が地域や保護者とより一層コミュニケーションを深め、学校がすべきこと、家庭がすべきこと、地域が支援することを意識して取り組んでいくことが必要である。統合校であるからこそ、従来にはない新しいことができる可能性がある。

下京雅 学校だより

学校評価特集
~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~



平成 29 年 10 月
京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました平成29年度前期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、その実現度を比較しました。学校評価の結果を真摯に受け止め、よりよい下京雅教育の在り方を探り、今後に生かしていきたいと考えております。

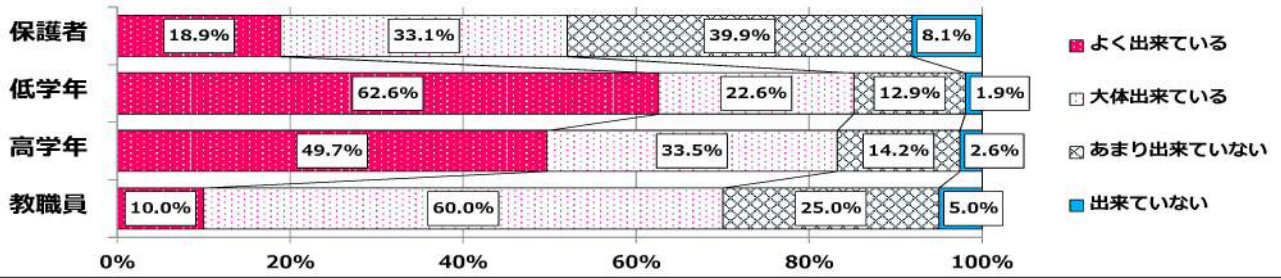
【アンケート集計結果】(実現度の値は、解答の平均値を1.0~4.0のスコアで表示したものです。)

質問項目 ※()は児童用の質問 児童アンケートには「子どもは」「家庭では」という主語はありません。	実現度 (4.0に近いほど実現できていると考えられます)				分析・考察	
	保護者	低学年	高学年	教職員		
確かな学力	子どもは、学校の授業がわかっている。(学校の授業はよくわかる)	3.2	3.6	3.5	3.2	低学年児童はすべての項目について3.5以上の高い実現度であったのに対し、高学年児童、保護者、教職員は3.0前後の低い実現度でした。特に、「読書の習慣」という質問に対しては、保護者と教職員ともに低い実現度であり、読書離れが進んでいるように感じました。学校での朝読書が、家庭での読書生活につながるように取り組んでいくことが必要だと考えています。
	子どもは、めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。	3.1	3.7	3.3	3.3	
	家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。	2.9	3.7	3.1	3.3	
	子どもが人の話をしっかり聞けるように、家庭でも話をしっかり聞いている。	2.9	3.5	3.3	3.2	
	子どもが、自分の考えをきちんと言えるように子どもの言葉を待つようにしている。	2.9	3.5	3.1	3.4	
	家庭でも、読書の習慣が身につくように工夫している。(たくさん本を読んでいる)	2.6	3.5	3.3	2.3	
豊かな心	子どもは、楽しく学校に通っている。(学校にくるのが楽しい)	3.5	3.7	3.5	3.5	「楽しく学校に通っている」という質問に対して、児童・保護者・教職員が3.5以上の高い実現度であったことは喜ばしい結果です。その反面、「あいさつ」「言葉遣い」に対しての保護者・教職員の実現度は低い結果でした。校内での取組はもちろん、家庭、地域が手を取り合って、子どもたちの規範意識や社会性の向上に全力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。
	家庭では、お互いの良さを認め合い、自分もまわりの人も大切にできるようにしている。	3.2	3.8	3.6	3.3	
	家庭では、家族のルールや、社会のルールを守ることの大切さを確認している。	3.3	3.7	3.4	3.0	
	家庭では、あいさつを大切にし、自分から進んであいさつができるようにしている。	3.1	3.6	3.3	2.6	
	家庭では、時と場合を考えた、ていねいな言葉遣いを心がけている。	2.9	3.5	3.2	2.6	
	友達や家族、兄弟姉妹に思いやりの気持ちでかかわることを大切にしている。	3.1	3.7	3.2	3.1	
健やかな体	家庭では、早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身につくように心がけている。	3.2	3.4	3.2	2.8	「安全に生活」という質問に対する実現度が高いことは、うれしい結果です。この結果には、登下校時の見守りが大きく影響しており、感謝しております。また、児童の「外遊び」での高い実現度には、ジャンプアップの取組が関係していると考えています。
	子どもたちが安全を意識して生活できるように働きかけている。(安全に注意して生活している)	3.3	3.8	3.7	3.3	
	家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。(よく体を動かしている)	3.0	3.5	3.5	2.6	
	家庭では、好き嫌いなく食事ができるように意識や工夫をしている。	3.1	3.5	3.3	2.8	
家庭・学校・地域との連携	学校は、ホームページや学校だより、学級の学習予定表などで学校の様子を分かりやすく伝えている。	3.3			2.9	下校時の見守り活動をはじめ、あらゆる場面で家庭や地域の方々の多くのご協力をいただいていることに感謝しています。学校は家庭・地域の皆様と連携して子どもたちの成長に全力を注いでいきます。そのためにも、これまで以上に情報公開を行い、開かれた学校づくりを進めていきたいです。
	家庭では、配布物やホームページなど、学校からの情報を確認している。	3.2			2.6	
	学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できる。	3.0			2.6	
	見守り活動など、「地域ぐるみ」で子どもを育てようとしている。	3.1			3.1	
	「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言えるようなかわりをしている。	3.2			3.3	

ご協力ありがとうございました。後期学校評価アンケートもよろしくお願いいたします。

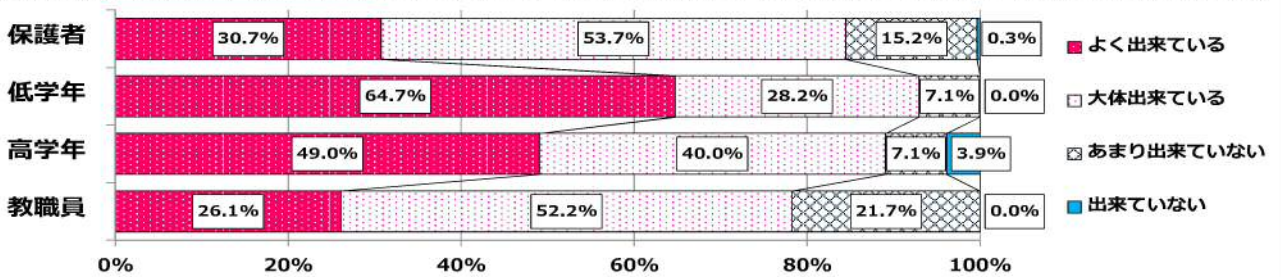
【特徴的な項目での分析・考察】（三つの重点「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の三つの重点から一つ）

【確かな学力】家庭でも、読書の習慣が身につくように工夫している。（たくさん本を読んでいる）



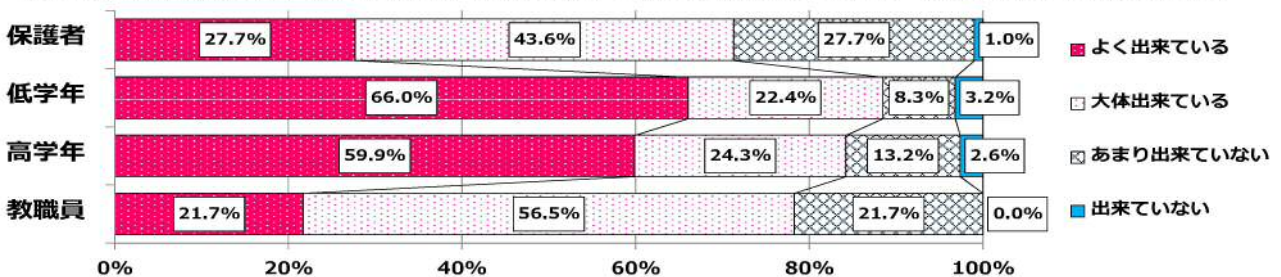
「よく出来ている」と回答した低学年児童は62.6%、高学年児童は49.7%という割合でした。低学年児童の半数以上が、たくさん本を読んでいることがわかります。国語科の授業を中心に学校図書館を活用して読書活動の機会を多く持つことができるのが低学年であることから、このような結果となったのではないかと推測されます。近年、子どもたちを取り巻く社会の情報化は目覚ましく、「活字離れ」が進んでいることが問題とされています。子どもたちの周りにもICT機器があふれ、読書に向かう意欲が高まりにくい社会となっています。このような高度情報化社会では、知識を詰め込んでいくだけでは対応できず、自分自身で深くものを考える必要があります。そこで、読書がより一層必要になり、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことが切実に求められています。学校においては、学校図書館の活用を推進したり、家庭学習や自主学習などに読書を取り入れたいと考えています。

【豊かな心】家庭では、あいさつを大切に、自分から進んであいさつができるようにしている。（自分からあいさつをしている）



「よく出来ている」と回答した低学年児童と高学年児童が約50%以上いるのに対し、保護者や教職員は30%以下と低い割合でした。また、「あまり出来ていない」と回答した割合においても、児童と保護者・教職員との差が大きく、児童に比べて、保護者・教職員は子どもたちのあいさつがあまり出来ていないと感じています。あいさつをすることは、社会のマナーの一つであり、人との関わりの第一歩として、小学校期に是非とも身に付けておきたいことです。地域や保護者の方々の登下校の見守りでのあいさつ、学校で友達とのあいさつ、教職員とのあいさつなど、様々な人たちに様々な場面であいさつをする機会があります。その機会を大切に、じっくりと子どもたちにあいさつの良さや必要性を実感できるようにしたいです。

【健やかな体】家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。（外遊びなどでよく体を動かしている）



「よく出来ている」「大体出来ている」と回答した児童と教職員が85%以上の高い割合であったのに対し、保護者は70%と少し低い割合であった。この結果から、今年度当初より取り組んでいる、朝の「ジャンプアップタイム」がよい影響を与えているのではないかと推測しています。週に3回、全校児童が体を動かす機会があり、どの児童も楽しく遊ぶ姿があります。ジャンプアップタイムで楽しく遊ぶ経験を積んだ子どもたちは、自然と休み時間も外で体を動かす機会が増えています。下京雅の地域には子どもたちが体を動かして遊ぶことができる公園が少ないこともあるので、できるだけ学校が子どもたちの「遊び場」としての機能を果たせるよう、取組を進めていきたいと考えています。

学校運営協議会の方々のご意見 （多くの意見をいただきました）

低い自己評価を付けた児童に目を向け、支援していくことも大切ですね。

下京雅小学校で、読み聞かせの取組を始めてもいいですね。

授業中の声がとてもよい。朝のあいさつもどんどんできるようになってきました。後期はもっとよい評価になるのではないのでしょうか。

統合して、休みの日に子どもたち同士で遊ぶことが減っているのではないかと心配しています。家が遠くなったので仕方がないかとは思いますが…。

登校班のリーダーがあいさつをするようになると、つられてどんどん自分からあいさつをするようになりました。

これらの結果を、後期からの下京雅教育推進に生かしていきたいと思えます。

下京雅学校だより

後期学校評価特集

~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~



平成30年3月
京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

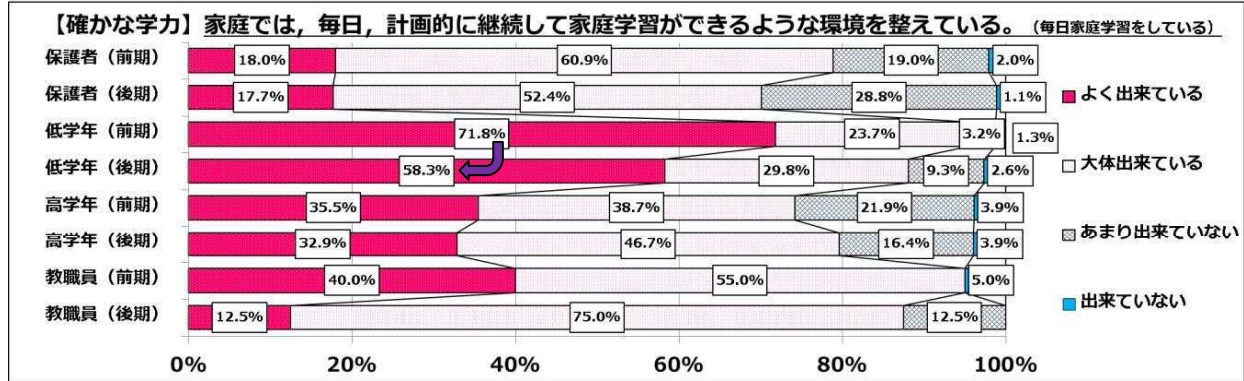
さて、1月に実施いたしました平成29年度後期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、その実現度を前期と後期で比較しました。

【アンケート集計結果】(実現度の値は、解答の平均値を1.0~4.0のスコアで表示したものです)

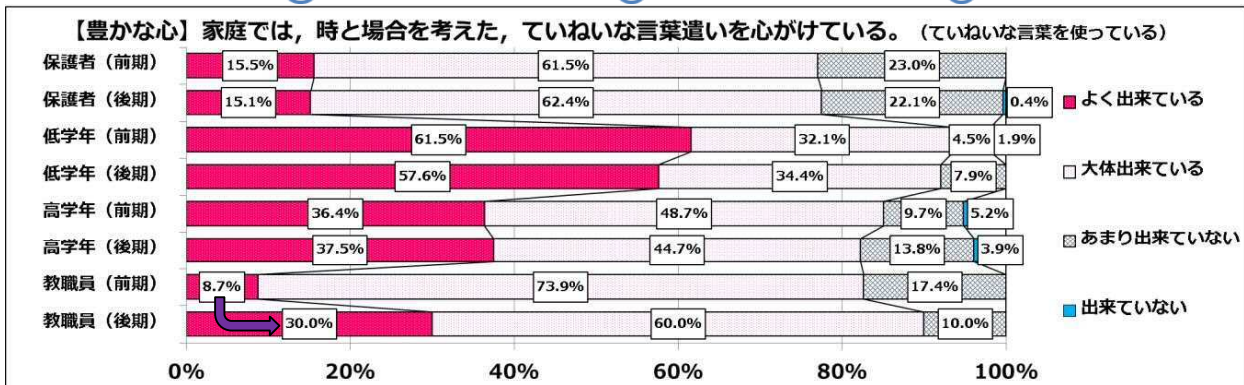
質問項目	実現度 (4.0に近いほど実現できていると考えられます)								分析・考察
	保護者		低学年		高学年		教職員		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
確かな学力 子どもは、学校の授業がわかっている。 (学校の授業はよくわかる) 子どもは、めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。 家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。 子どもが人の話をしっかり聞けるように、家庭でも話をしっかり聞いている。 子どもが、自分の考えをきちんと言えるように子どもの言葉を待つようにしている。 家庭でも、読書の習慣が身につくように工夫している。(たくさん本を読んでいる)	3.2	3.2	3.6	3.6	3.5	3.4	3.2	3.2	「話を聞くこと」についての実現度が高まっています。「人を大切にすることはよい聞き手」と言われていますので、これからもよい聞き手であってほしいです。一方、家庭学習や読書については課題の残る結果となりました。図書ボランティアの方の活動も始まっていますので、よいきっかけとなればと考えています。
	3.1	3.0	3.7	3.6	3.3	3.2	3.3	3.3	
	2.9	2.9	3.7	3.4	3.1	3.1	3.3	3.0	
	2.9	2.9	3.5	3.6	3.3	3.5	3.5	3.5	
	2.9	2.8	3.5	3.5	3.1	3.1	3.4	3.4	
	2.6	2.6	3.5	3.3	3.3	3.0	2.8	2.9	
豊かな心 子どもは、楽しく学校に通っている。 (学校にくるのが楽しい) 家庭では、お互いの良さを認め合い、自分もまわりの人も大切にできるようにしている。 家庭では、家族のルールや、社会のルールを守ることの大切さを確認している。 家庭では、あいさつを大切にし、自分から進んであいさつができるようにしている。 家庭では、時と場合を考えた、ていねいな言葉遣いを心がけている。 友達や家族、兄弟姉妹に思いやりの気持ちでかかわることを大切にしている。	3.5	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	保護者の方から、「楽しく学校に通っている」というよい評価をいただき、大変喜んでます。また、自分から進んであいさつをすることに対する教職員の実現度が高まっています。ご家庭での温かい声かけやご支援が、日々のあいさつの姿となって表れているのだと思い、感謝しています。さらに高められるように働きかけたいです。
	3.2	3.2	3.8	3.7	3.6	3.6	3.3	3.2	
	3.3	3.3	3.7	3.6	3.4	3.5	3.1	3.3	
	3.1	3.1	3.6	3.5	3.3	3.5	2.9	3.1	
	2.9	2.9	3.5	3.5	3.2	3.2	2.9	3.2	
	3.1	3.1	3.7	3.5	3.2	3.1	3.2	3.1	
健やかな体 家庭では、早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身につくように心がけている。 子どもたちが安全を意識して生活できるように働きかけている。(安全に注意して生活している) 家庭では、外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている。(よく体を動かしている) 家庭では、好き嫌いをなく食事ができるように意識や工夫をしている。	3.2	3.1	3.4	3.4	3.2	3.1	2.9	2.9	おおむね前期と同じような実現度でしたが、教職員の実現度は、保護者の方や子どもたちの実現度より高くなっていました。4月からの外遊びの取組の成果を、子どもたちの姿から感じているのではないかと推察します。
	3.3	3.3	3.8	3.7	3.7	3.6	3.3	3.6	
	3.0	2.8	3.5	3.5	3.5	3.4	3.0	2.9	
	3.1	3.1	3.5	3.4	3.3	3.3	3.0	3.4	
家庭・学校・地域との連携 学校は、ホームページや学校だより、学級の学習予定表などで学校の様子を分かりやすく伝えている。 家庭では、配布物やホームページなど、学校からの情報を確認している。 学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できる。 見守り活動など、「地域ぐるみ」で子どもを育てようとしている。 「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言えるようなかかわりをしている。	3.3	3.2					3.1	3.1	下京雅統合の初年度、「地域」の方々へ大きな力添えをいただいた一年でした。すべての教職員の感謝の思いが実現度に表れております。今後は、三者が更にスムーズな情報共有ができるように、学校の発信の仕方についても考え直す必要があると感じています。
	3.2	3.2					3.0	2.9	
	3.0	3.1					2.9	3.1	
	3.1	3.1					3.1	3.0	
	3.2	3.2					3.3	3.4	

ご協力ありがとうございました。

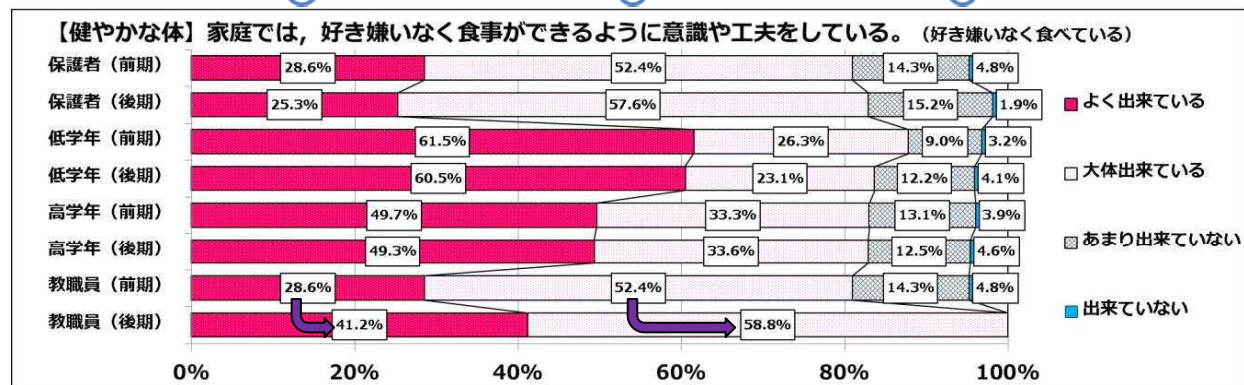
【特徴的な項目での分析-考察】（三つの重点「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の三つの重点から一つ）



家庭学習は、学んだことを振り返り、確かな学力につなげるものです。毎日コツコツ続けていくことが、子どもたちの力となります。小学生のうちに家庭学習の習慣を身に付けることが、後々の学校生活に大きく影響します。このようなことから、「よく出来ている」と回答した低学年児童で約20ポイント低下したことは問題といえます。「先生や家の人に言われなくても宿題や課題をやることができる」「わからないことは自分で調べる」「興味・関心を持ったことを追求する」などという力を身に付けるためにも、子どもたちへの肯定的な声かけや家庭学習に取り組む時間の工夫などの支援を続けていきたいと考えます。



保護者や子どもたちの評価は前期と大きく変わりませんが、教職員の「よく出来ている」と回答した割合は、8.7%から30%に上昇しました。4月に比べ、子どもたちの言葉遣いが丁寧になってきたという実感をもっている教職員が増えたということであり、喜ばしい結果でした。子どもたちの丁寧な言葉遣いを継続するためには、まず我々大人が普段から手本となる話し方をする必要があります。授業中はもちろん、いつでもどこでもだれに対しても、丁寧語、または美しい言葉を使うように意識していきたいと感じました。



「よく出来ている」「大体出来ている」と回答した割合は、約80%以上であり、素晴らしい結果でした。子どもたちの給食での様子を振り返ると、4月に比べ、食べる量が増え、どのクラスも毎日完食することがほとんどです。毎日の給食指導や給食週間での取組の成果が表れていると考えています。子どもは、食に対してほかの人の影響をとても受けやすく、好き嫌いも周囲の人に大きく左右されることがあります。これからは学校でもご家庭でも、食に対しての良い環境を整えていながら、子どもたちの健やかな体を支えていきたいと考えています。

学校運営協議会の方々のご意見 (多くの意見をいただきました)

教職員の評価が高まっていることが素晴らしいですね。子どもたちとこれまで取り組んでこられた結果だと感じます。統合して人が増え、活気のある学校になってよかったです。

あいさつは校歌の歌詞にもあるように、心を開いて進んでいくといいですね。

学校評価の質問項目を保護者のニーズを基に作成するのもいいですね。

統合初年度ということもあり、子どもたちも教職員も、とても張り切って取り組まれ、前へ前へ進まれていた。二年目以降も、前進していただきたいが、時には立ち止まりながら、足元を固めていっていただきたい。

これらの結果を、来年度の下京雅教育推進に生かしていきたいと思います。

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標	○論理的思考力, 判断力, 表現力を育てる。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> * <u>主体的・対話的</u>で深い学びを目指して, <u>授業づくりへの意識</u>を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い学習集団を育て, 支えあい, 学び合う学習集団を目指す。 ・授業の中で粘り強く考え, 自信をもって考えを伝え合う授業を目指す。 * <u>論理的思考力・判断力・表現力</u>という<u>資質・能力</u>を育てる授業を構築する。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の継続的な指導や支援を積み重ねる。 * 「<u>カリキュラムマネジメント</u>」による教育内容を<u>教科横断的</u>な視点で組織的に編成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「何ができるようになったのか」という視点でカリキュラムマネジメントをする。 * <u>主体的に</u>, 安心して学習を進めるための, 共通した学習ルール, ねらいやまとめ・自分の考えが書かれたノート指導の推進・徹底をする。言語活動の充実を図る。 * 明日の授業に生きる<u>家庭学習</u>に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図り, 系統立てた家庭学習のスタイルを確立する。 * 英語活動を中心としてタブレットを有効活用するとともに, 基礎・基本の定着にもつなげる。 * 英語活動支援員を活用したイングリッシュシャワー, クラスルームイングリッシュの一層の推進。
(取組結果を検証する) 各種指標 学校アンケートの結果より	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業はよくわかる。 ・めあてをもってあきらめずに学習に取り組んでいる。 ・人の話をしっかり聞き, 自分の考えがきちんと言える。 ・毎日系統立てた家庭学習に取り組み, 自学自習の習慣がついている。
各種指標結果 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・約95%の児童が学校の授業はよくわかる・大体わかると回答している。 ・めあてをもって諦めずに学習できているという意識や人の話をしっかり聞き, 自分の考えがきちんと言えるという意識は高学年で約80~90%, 低学年で約90~95%と低学年児童の方が高い。 ・家庭学習や自学自習について, 高学年(約75%)より低学年(約95%)児童の方ができているという意識が高い。保護者や教職員は課題としてとらえている。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の研究主題を「論理的思考力・判断力・表現力」の向上を目指す授業研究として, 国語科を核に教科横断的に取組を進めていることで, 粘り強く考えたり, 自信をもって考えを伝え合ったりする力が身についてきている。また, 主体的に学ぶことや対話的に学び合うことを意識して授業を行うことで, 学びが深まってきている。全国学力・学習状況調査やジョイントプログラム等の結果からもその成果は見られている。 ・資質や能力を育てる授業を構築しようと教員の意識が高まり, 少しずつ質の高い, 学び合う学習集団となってきているが, 集団の中に見られる学力の差が課題となっている。 ・宿題を中心とした家庭学習については, ほとんどの児童に定着しているが, 主体的に自学自習に取り組む力は不十分で, 具体的な方法について指導が必要である。また, 家庭における読書については課題があり, 自分自身で深く考える力を身につけるためにも読書の必要性を感じている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ身についてきている力を定着させていくために, 「できた」「わかった」という実感を伴った学びを積み重ね, 学びへの主体性を高めていく。 ・ジョイントプログラム等の結果からも, 下位層にいる児童に対する支援が課題となっている。どこにつまずきがあるのかを分析し, その児童に対する支援はもとより, 各学年の学習内容については, その学年で責任をもって学びが定着できるように徹底していく。 ・情報化社会の中で, 読書を通して活字に触れる機会が必要だと考える。知識を詰め込むだけでなく, 自分自身で深くものを考えられるように, 意図的に本に手を伸ばせるように働きかけていく。

	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合して、新しい環境で、人数が増え、子どもたちがこれまで以上に学び合うことができていることは喜ばしい。 ・読書について、「この本を読みたい」と思えるように、書店にあるようなPOP (Point of purchase advertising) を学校図書館でも活用してみてもどうか。
	<p>評価日 平成29年10月18日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
	<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期よりも、「話を聞くこと」について高学年児童の実現度が高くなった。 ・家庭学習については、前期には70%を超える児童が「よくできている」と回答していたが、後期は、「よくできている」と回答した低学年児童は、58%ほどに低下した。 ・家庭での読書の習慣については、低学年も高学年も前期より実現度が下がっている。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期よりも話を聞くことについて、高学年の実現度が高くなったことは、粘り強く考えたり、自信をもって考えを伝え合ったりする力が身につけてきていることを、高学年の児童自らが気づき、実感できているからだとと言える。 ・家庭学習の習慣がしっかり身につくように、子どもたちへの肯定的な声掛けを保護者の方々にも協力していただき、取り組んでいきたい。また、家庭における読書については、自分自身で深く考える力を身に付けるためにも大切であることを改めて保護者の方々に伝える必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、実感できたこと、褒められたり認められたりしたことについて、自信となって身に付けることができるため、できる限り肯定的な声掛けを行うように、学校と家庭が意識して行っていくようにする。 ・情報化社会の中で、どのように活字に触れる機会を設けるか、家庭への呼びかけを含め、意図的に働きかけていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合により、人数が増え、学びが活発になったことは非常によかった。今年度は1年目で子どもたちも教職員も「はりきり具合」が強かったのではないだろうか。立ち止まっている子に目を向け、進む速度を考えることで、はりきれない子を見落とすことがなくなるのではないだろうか。 ・図書ボランティアが「読み聞かせ」をしたり、放課後の学校図書館開館をしたりと協力できていることは喜ばしい。地域ボランティアへの呼びかけも考え、活用できればよいのではないか。
	<p>評価日 平成30年3月8日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>○命・心・生き方を大切に、自他を真に大切にする。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「子どもの人権」を大切にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの<u>命や心</u>、生き方を大切にしているのか、心を傷つけあうことはないか。 * <u>尊敬</u>という思いを大切に、大人の<u>人権感覚</u>を磨く。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いにかけてあげのない存在として相手を受け入れる。 * 「社会というものさし」で判断する。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会で許されないことは学校でも許されない。 * 「想像力」と「行動力」を意識する。 <ul style="list-style-type: none"> ・正しいことは正しい、正しくないことは正しくない適切に善悪を判断して実行できるようにする。 * 道徳教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の学習の充実と、他教科・領域も含んだ学校教育活動全体を通して行う。 * プラスの言葉シャワーで子どもたちを変える。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもが存在感・成就感・達成感・自己有用感を感じる学校・学級の風土をつくる。

<p>(取組結果を検証する) 各種指標 学校アンケートの結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や社会のルールを守っている。 ・自分から進んであいさつをしている。 ・お互いの良さを認め合い、自分も友達も大切にしている。 	
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、学校や社会のルールを守っているという項目に対して、できている・大体できていると全員の児童が回答している。高学年の児童は約91%にとどまっている。 ・自分から進んで、相手に伝わるようにあいさつをしているという項目に対しては、低学年児童は「あまりできていない」と約7%が回答しているが、「できていない」と回答した児童はいない。しかし、高学年児童は「できていない」と約4%の児童が回答している。 ・お互いの良さを認め合い、自分も友達も大切にしているという項目は、全児童意識が高く、低学年で約97%、高学年で約96%の児童が「できている」・「大体できている」と回答している。 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合1年目で人間関係は構築できるだろうか、子どもたちに戸惑いはないだろうか等、不安要素がたくさんある中でのスタートだったが、これまでに淳風・醒泉の両校での取組も行ってきたこともあり、子どもたちは良好な友達関係を築きながら学校生活を送ることができている。今後も、表面上でなく、お互いにかけてあげない存在として相手を受け入れ、人権感覚を磨いていく必要がある。 ・児童のアンケート結果から、お互いの良さを認め合い、自分も友達も大切に意識が高いことは、統合1年目の本校にとって大変嬉しいことである。さらに、すべての子どもが存在感・達成感・自己有用感を感じる学校・学級の風土をつくる努力をしていきたい。 ・特に低学年では、学校や社会のルールを守っているというアンケート結果になっていて、意識が高まっているように捉えられるが、実際の行動からは徹底できていない場面も多くみられる。 ・自分から進んで相手に伝わるようにあいさつをすることには課題がある。下を向いたままだったり、相手に届くかどうかかわからないような声だったりでも、子どもたちはあいさつをしているつもりになっている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で許されないことは学校でも許されないという「社会」というものさしで、学校生活を再度考え、学級指導も含め、教職員が同じ目線で指導をしていく必要がある。繰り返しの指導を心がけ、意識改革を図っていきたい。 ・統合1年目の後半は、学校生活にも友達にも慣れてくるため、ていねいに子どもたちとかかわりながら、心の動きを見取り、見逃しのない対応を心がける。 ・あいさつはコミュニケーションと捉え、心を届けるあいさつができるように、教職員の意識も高めて継続的な声かけをしていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合をしてから、放課後に淳風・醒泉両校の児童と一緒に公園で遊ぶような姿を見かけないことについてご心配いただいた。多少の行き来はあるものの、校区が広くなり、交通安全の面からも保護者の心配はあるためだと考えられるが、今後、子どもの活動範囲が広がったときに、地域や保護者の目をしっかり向けていきたいと考えていただいている。 ・毎朝、見守り活動をしていて、子どもたちから元気ももらっている。開校当初はあいさつもしっかりできていなかったが、最近ではできるようになってきている。 ・子どもたちにとってどうなのかということを一番に考えて、学校が取り組んでいることについてはこれからも協力していきたい。
	<p>評価日 平成29年10月18日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んであいさつをするという項目に対して、わずかながら高学年の児童が「よくできている」と回答した。 ・「お互いの良さを認め合い、自分も周りの人も大切にできるようにしている」という項目に対して、「よくできている」と回答した保護者は全体の27%、「だいたいできている」と回答した保護者は62%だった。あいさつについても同様の結果だった。 	

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 児童の「あいさつ」については、意識は高まってきているものの、実際にはまだまだ相手に伝わるあいさつとは言えない。「しているつもり」で終わらないように徹底していく必要がある。 保護者は、「お互いの良さを認め、自分も周りの人も大切にしている」ことや「あいさつ」についても結果的に「だいたいできている」と回答するため、「できている」ことになるが、徹底して意識をしているわけではないことに課題がある。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> あいさつはコミュニケーションとして捉えながら、日々、子どもたちとかがわってきているが、心のこもった、相手を意識したあいさつに至っていない。学校も家庭も、継続的な声掛けを意識していく必要がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 心を開かないとあいさつはできない。児童朝会を見た時に6年生の児童が「高学年が進んであいさつをしよう」と呼びかけていた。家庭での「おはよう・おやすみ・ありがとう」等のあいさつも含めて、それぞれの意識が必要なのではないだろうか。 人間関係が希薄になっている社会になっていて、若い保護者は、どこに頼れば良いのか、誰に聞けば良いのか不安を抱えている。寄り添いながらコミュニケーションをとっていく必要がある。
	評価日 平成30年3月8日 評価者 学校運営協議会

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 ○体を動かすことを楽しみ、情緒面や知的な発達を促し、コミュニケーション能力を育む。	
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> *運動やスポーツの実践を通して、運動することの楽しさや喜び、達成感や成就感を味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育学習やジャンプアップタイムの取組の充実を図り、体を動かすことを楽しむ。 ・コミュニケーション能力や論理的思考力を育み、実生活に生かす。 *自分の健康を自分で維持したり、自分の身を自分で守ったりする意識・態度を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーのある児童の安心安全を確保するために、保護者との連携を図る。 *命を大切に<u>する心の教育</u>や安全教育の取組を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな危険から自分を守るための知識と判断力を身につけ、事故予防に努める。 *環境整備を心がけ、安全点検や整理整頓の徹底、清掃活動の充実を図る。 	
(取組結果を検証する) 各種指標 学校アンケートの結果より <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身についている。 ・外遊びなどでよく体を動かしている。 	
各種指標結果（1回目） <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身についているという項目に対して、低学年児童の約10%ができていないと回答している。高学年は約17%の児童ができていない。保護者も約15%が心がけられていないという結果が出ている。 ・全校児童の約10～16%が、外遊びなどで体を動かすことができていないと回答している。 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 高学年児童は、習い事の関係もあり、早寝がなかなかできないという現状があるようだが、集団登校をすることもあり、朝は比較的スムーズに行動できている。保護者に協力を呼びかけ、健康面や心と体の成長を支えていく必要がある。 ジャンプアップタイムの取組を通して、運動することの楽しさや喜びを感じることができた。与えられた環境ではなく、自ら体を動かすことの楽しみを見出せるようになるとより充実するのではないかと考える。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 長期休業明けに1週間、生活点検をしている。点検結果は養護教諭から保健だよりで報告しているが、できていない家庭が、自分事として捉えられていないと推察する。担任や養護教諭から児童と保護者に個別に働きかけ、少しでも改善していけるようにしていきたい。 地域に体を動かして遊べる公園がなく、学校の運動場が体を動かせる唯一の場所だと言える環境の中、ジャンプアップタイムに全校児童が体を動かす時間をとることはとても重要で、これからも継続して取り組んでいきたい。また、遊びの工夫をして、子どもたちが思考を働かせながら充実した時間となるように支援していきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校アンケートの中で「家庭では～」という項目に対して、「できていない」という分析結果が多いということは、保護者がもっと考えて日々取り組んでいかないといけない。子どもにまかせの部分と、親が責任をもって取り組んでいく部分がある。
	評価日 平成29年10月18日 評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣が身につけている」という項目に対して、低学年児童は約15%、高学年児童は約20%、保護者は約16%ができていないと回答していて、前期よりもできていない割合が高くなっている。 ・「外に出て遊び、よく体を動かすように声かけをしている」項目では約40%の保護者ができていないと回答している。
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・後期になって寒い朝等、気温の影響もあるのか生活習慣についてはできていない割合が高くなった。低学年の子どもたちも学校生活に慣れ、少し緊張感がなくなっていることも一因だと考える。 ・学校ではジャンプアップタイムの取組もあり、運動を楽しむ児童が増えている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や家庭での外遊びについては家庭への呼びかけを継続的にして、保護者の意識を高めていく必要がある。一方、本校校区には、ほとんど公園がなく、体を動かして遊べる場所がないことも問題である。放課後には、運動場で遊べるように、できるだけ開放をしていきたい。 ・ジャンプアップタイムの取組は、子どもたちに遊びを与えるのではなく、子どもたちが工夫や思考を働かせて遊べるように支援をして、遊びを広めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「健やかな体」の育成については、保護者の意識改革が必要なのではないだろうか。おやじおふくろの会では、親子で一緒に楽しめることを計画して、今年度は体を動かして遊ぶことを中心とした取組を企画した。参加者は、その場で親子の会話が弾み、また、家庭では見られない子どもの姿を見ることができている。我が子以外とのかかわりももてるため、次年度もより良い取組をしていきたい。
	評価日 平成30年3月8日 評価者 学校運営協議会

（４）学校独自の取組

重点目標	○統合1年目の新しい道を、学校・保護者・地域が連携する中で切り拓いていく。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> *意図的、意識的に開かれた学校というイメージがもてるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だより等を通して、学校の様子を広く伝えていく。 *学校生活や学校行事の中で、他人を思いやる心や感動する心など子どもたちの豊かな人間性の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で、互いを認め合い、励まし合えるような人間関係をつくっていく。 ・登下校の見守り活動やPTA活動で多くの方に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。 *小中一貫教育・幼小連携の推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・3年後の新校舎でつながりをもつ楊梅幼稚園との連携を計画的に進める。
(取組結果を検証する) 各種指標	学校アンケートの結果より <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子は、ホームページや学校だより等でよくわかる。 ・「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言える。 ・楊梅幼稚園の友だちのことや活動を知り、進んでかかわりをもつ。
各種指標結果（1回目）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子は、ホームページや学校だより等でよくわかるという項目には「できていない」という評価はなかった。「あまりできていない」という評価が約6%あった。 ・「ありがとう」と素直に言えるかかわりができていない家庭が約10%あった。 (楊梅幼稚園とのかかわりは前期にはもてなかったため、前期の指標には入れていない)

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子はホームページ等でわかりやすく伝えてしていると評価いただき、学校からの情報を確認していただいている。それだけに、これまで以上に情報公開をしていく必要性を感じている。 ・「ありがとう」と素直に言えるかかわりができていないことは残念な結果だととらえる。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・やってもらって当たり前の子どもが増えてきている昨今、「ありがとう」の感謝を伝える一言で、互いを認め合い、励まし合える人間関係が築いていけると考える。今一度、他人を思いやる心や相手に寄り添う気持ちなどが考えられるように働きかけていく必要がある。 ・意図的、意識的に情報公開をして、開かれた学校づくりをしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域、保護者が協力していくことが大切である。もっと学校が地域や保護者に要求をしても良いのではないだろうか。協力は惜しまない。 ・地域には伝統的な祭りをはじめ、伝統文化に携わっている人がたくさんいるのでどんどん活用していけば良いのではないか。
	評価日 平成29年10月18日 評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子は、ホームページや学校だより等でよくわかるという項目は、前期は、約6%の保護者が「できていない」と回答されていたが、後期は約4%に減った。 ・「ありがとう」と感謝の言葉が素直に言えるかかわりができていない家庭が、前期は約10%あったが、後期は約8%に減った。 （楊梅幼稚園とのかかわりは後期に何度かもったが、全校でのかかわりにならなかったため、後期の指標には入れていない）	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がより伝わるようになったことは嬉しい評価と受け止めている。一方、自由記述欄には「もっとホームページ等を活用すべき」と記述されている保護者のご意見がある。 ・「ありがとう」のみならず、気持ちを表す言葉を、素直に発することができていない。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・「やってもらってあたりまえ」の子どものみならず、学校は「やってあたりまえ」と考える保護者が増えてきている昨今、学校の課題は課題として改善を心がけ、保護者への呼びかけや発信も丁寧に行っていきたい。 ・「開かれた学校」を作っていく中で、意図的、意識的な情報公開をこれまで以上に工夫していく必要がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・後期の評価結果から、教職員の意識が高まり、統合して良かったと考える。多くの学区から児童が通っているため、各自治連合会についても学校とのつながりを大切にしたい。学区の行事も学校だより等を通して発信してもらうことで地域の活性化にもつながり、下京雅小学校区の子どもたちが、それぞれの自治連合会の主催する行事に参加する楽しみもできるのではないだろうか。 ・評価項目を保護者にアンケートをとるなど、保護者のニーズに合わせたものにはならないのだろうか。
	評価日 平成30年3月8日 評価者 学校運営協議会

学校評価のねらい

下京中学校の教育目標の達成に向けて、現状の把握と教育活動についての検証（チェック）のために学校評価を行う。評価活動により下京中学校の目指すべき方向を再確認し、多様な教育活動の優先順序を示し、学校・地域・家庭の目指すべき姿の共通理解を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価部の設置 ・評価計画の作成 		
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート①（クラマネ） ・教職員自己目標申告 ・生徒教育相談アンケート ・アンケート集計分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校運営協議会 学校教育方針の説明 (学校関係者評価①) 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観アンケートの実施 ・生徒いじめアンケート ・アンケート集計分析 		
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒キャリアアンケート① ・保護者アンケートの実施① ・アンケート集計分析 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り，学校HPによる発表①
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・前期教職員評価（自己評価）① ・アンケート集計分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校運営協議会 学校運営協議会による評価の実施 (学校関係者評価②) 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果検討と改善策の検討 		
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期自己評価の準備 		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒キャリアアンケート② ・教育相談アンケート ・生徒いじめアンケート ・アンケート集計分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回学校運営協議会 学校運営協議会による評価の実施 (学校関係者評価③) 	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの実施② ・後期教職員評価（自己評価）の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り，学校HPによる発表②
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・分析作業 ・改善策の検討と次年度組織編成準備 ・生徒アンケート②（クラマネ） 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒キャリアアンケート③ 	<ul style="list-style-type: none"> * 組織総括 * 次年度方針確認 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果検討と改善策の検討 ・次年度改善計画 * 学校改革推進会議 ・評価引継ぎ 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り，学校HPによる発表③

校是 <最高経営理念>

— 志 きらめく —

夢 本気でつかむ

◆教育目標

「志」を高く，多様化するグローバル社会の現実を直視し，
主体的に学び続け，自らの人生を切り拓いていける人間の育成

◆目指す子ども像

- 生涯にわたって自らが主体的・能動的に学び続ける生徒
- 広い視野と多様な価値観をもち，共生の心や自他と協働しよりよい人生や社会の構築を生涯にわたり考え行動できる生徒
- 礼節を重んじると共に伝統と文化を大切にし，地域を愛し社会に貢献できる生徒
- 心身の鍛錬に励み，よりよく生き抜こうとする生徒

◆目指す教職員像

- 教育に対する揺るぎない情熱と熱い思いをもてる教職員
- 真の学力向上を目指し，高い専門性を発揮できる教職員
- 高い自己研鑽意識を持ち飽くなき自己開発を目指せる教職員
- 礼節と義を重んじ，志を語れる教職員

◆目指す学校像

- 志を語り，それを目標として琢磨し，地域や社会に貢献することができる
人材を輩出する学校

下京中学校の学校評価について

1 評価のねらい

- ・下京中学校の教育目標の達成に向けて、現状の把握と教育活動についての検証（チェック）のために学校評価を行う。
- ・学評価活動により下京中学校の目指すべき方向を再確認し、多様な教育活動の優先順序を示し、学校・地域・家庭の目指すべき姿の共通理解を図る。

2 重点評価項目

- ・「**確かな学力**」の育成に向けて
学びを深める教育実践（下京中学校版：アクティブ・ラーニング）を通じたキャリア教育の推進
- ・「**豊かな心**」の育成に向けて
道徳教育や人権が尊重される集団づくりを通して、豊かな心を育む教育活動を推進
- ・「**健やかな体**」の育成に向けて
個々の生徒に対して、思春期の特質を考慮し、社会との関わりを踏まえた人間としての生き方を見つめさせる指導の充実と環境の整備

3 評価手法

（取組概要）

- ・学校運営協議会の学校評価部とも連携しながら、評価項目について協議・検討を行い、教職員・保護者・生徒を対象としたアンケートを実施する。
- ・学校評価に関するアンケート調査だけでなく、全国学力・学習状況調査や学習支援プログラムの結果等も含めながら、総合的に取組の成果を検証する。

（評価項目について）

- ・生徒アンケートでは、「自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えている」、「自分には良いところがあると思っている」「何か不安なことがある」等の項目について調査。
- ・教職員アンケートでは、「生徒が主体的に取り組む授業づくりができています」「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができています」「家庭学習の習慣の確立ができています」等の項目について調査。
- ・保護者アンケートでは、「子どもは宿題を家庭で行っている」「子どもは、自分を大切にしたい行動・仲間を大切にしたい行動ができています」等の項目について調査。

4 アンケート結果等による分析

（1）「**確かな学力**」の育成について

- ・「学びを深める教育実践『本質的な問い』『対話の可能性』『思考ツール』の研究」をテーマに授業改善の研究を行い、生徒が主体となって取り組む授業づくりができた。
- ・校内研究として、思考ツールを活用した授業展開や実践について、より効果的な活用が進んだが、学びを深めることについては検証が不十分であった。
- ・家庭学習については、学習に課題のある生徒については効果的であった。家庭学習の提出を朝の学活前にすることによって、遅刻防止にも役立った。

(2) 「豊かな心」の育成について

- ・いじめアンケート，クラスマネジメントシート等を活用し，教職員間で綿密に情報交換を行い，いじめを見逃さない未然防止の活動と，生徒の心に寄り添った指導ができた。
- ・家庭と連携し，基本的なルールを守る指導を行ったが，ケータイ・スマホ等のSNSトラブルが多く発生し，啓発活動や指導を行ったが利用の仕方への指導に課題が残った。
- ・自己肯定感を高めることを目的とした学校行事や道徳の授業を通して，「自分や仲間を大切にする行動」という点で課題のある生徒が減少した。

(3) 「健やかな体」の育成について

- ・食事についての課題はないが，睡眠時間が不足しているという課題が解決されていない。スマホ・ケータイの利用の仕方が深く関与している。体調不良を訴え，保健室に訪問する生徒も多かった。
- ・保健体育の授業や休憩時間に，少しのことでケガをする生徒が多かった。
- ・どの学校行事に対しても，生徒がいきいきと取り組み，学校生活を楽しむ姿が多く見られた。

5 自己評価及び学校関係者評価

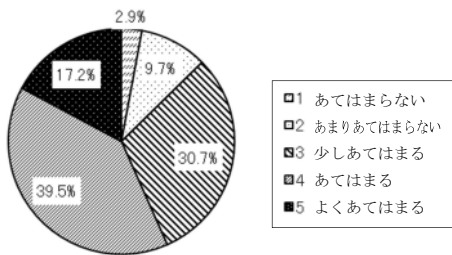
学校評価実施報告書を参照（60ページ）

6 総括・次年度に向けた課題等

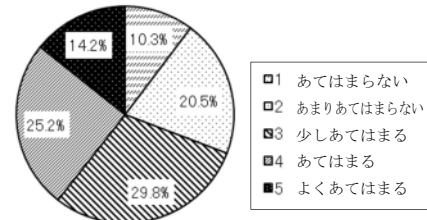
- ・学ぶことや働くことの意義について考える機会を意図的に設け，地域等と連携し，今学んでいることと将来のつながりを意識し，自分らしい生き方の実現のために行動できる取組を行う。
- ・資質，能力の育成に重点をおき，生徒が自信をもてる分野を広げ，地域も参画できるキャリア教育を推進すべきである。また，地域は学校教育に対して積極的に協力しようとしている土壌を活用し，校区内の小学校とも連携して学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活性化させていきたい。

【生徒アンケート】

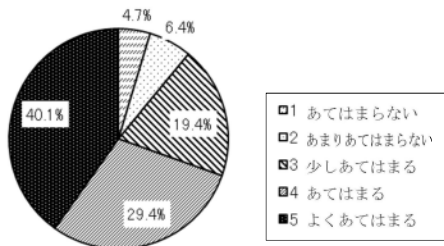
勉強に集中して取り組んでいる



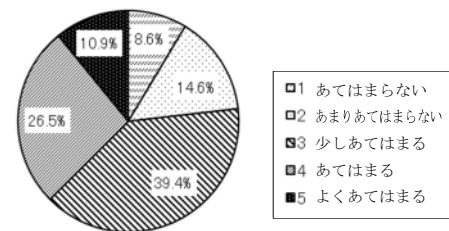
自分で計画を立てて勉強している



学校に行くのが楽しいと思う



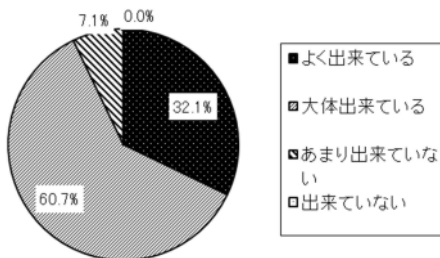
自分には良いところがあると思う



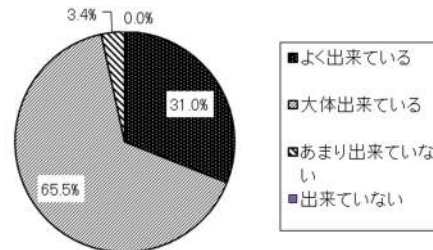
○「学校に行くのは楽しい」と感じる生徒は約9割で、「自分には良いところがある」と感じる生徒の割合は約8割。「勉強に集中して取り組んでいる」と思う生徒は約9割となった。

【教職員アンケート】

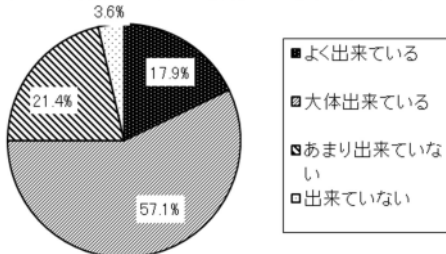
本時の目標を確認した毎時間の授業



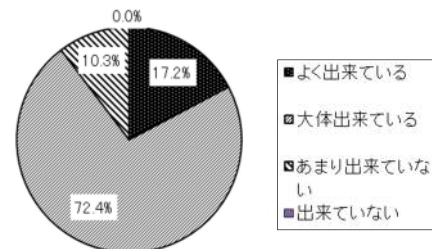
他者（多様性）を認め、思いやる指導



高めあう集団づくりを意識した授業等の実施



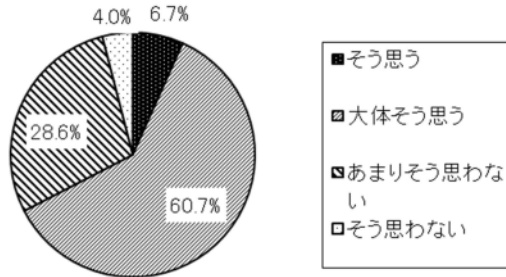
自分を大切にし、自己肯定感を高める指導



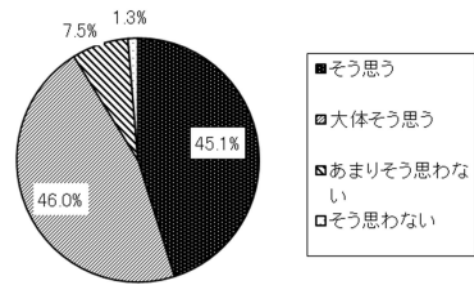
○教職員アンケートでは、「自分を大切にし、自己肯定感を高める指導」について、出来ていると実感するのが約9割であるのに対し、生徒アンケートの「自分には良いところがあると思う」と回答した生徒は約8割であった。引き続き、自己肯定感を高める指導に努めたい。

【保護者アンケート】

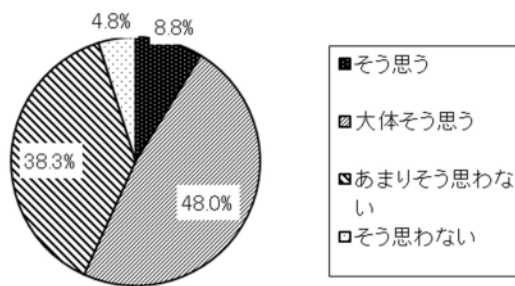
子どもは授業の要点やねらいが分かりやすいと感じている



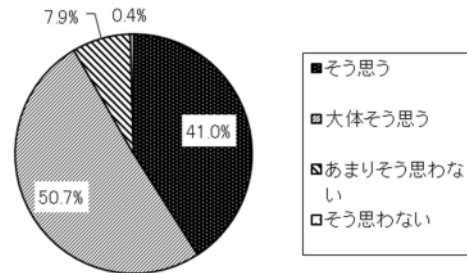
子どもは学校に行くのを楽しみにしている



子どもの家庭学習の状況を確認し、サポートできている



子どもは自分を大切にしたい行動ができている



○「子どもは授業の要点やねらいが分かりやすいと感じている」という項目については、約7割が概ね該当すると回答があった。また、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」については、約9割がそう思うと回答している。一方で、「家庭学習の状況を確認し、サポートできている」については、概ねそう思うとの回答が約6割であった。家庭学習との連携については、引き続き取り組んでいく。

平成29年度 生徒アンケート

	数字選択				
	1 あてはま らない	2 あまりあ てはまら ない	3 少しあ てはま る	4 あては まる	5 よくあ ては まる
朝食を毎日食べている	4.2%	3.5%	5.9%	5.6%	80.9%
毎日よく眠れている	5.7%	12.7%	18.4%	33.1%	30.1%
夢や目標を持って生活できている	5.3%	13.0%	27.3%	28.0%	26.3%
自分には良いところがあると思っている	8.6%	14.6%	39.4%	26.5%	10.9%
学校に行くのが楽しい	4.7%	6.4%	19.4%	29.4%	40.1%
クラスでは気になることもある	23.5%	20.8%	31.5%	12.4%	11.7%
部活の仲間とはうまくいっている	4.2%	3.5%	15.9%	20.8%	55.7%
自分の気持ちを理解してくれる友達がいる	2.6%	3.6%	16.7%	28.4%	48.7%
友達に伝えたいことをうまく伝えることができる	5.5%	8.0%	25.4%	33.1%	28.0%
他人から嫌なことを言われたことがある	14.2%	19.2%	28.8%	19.2%	18.5%
嫌なことでも我慢してしまう	13.7%	14.3%	33.0%	22.0%	17.0%
なにかイライラしてしまうことがある	8.4%	11.6%	26.4%	27.7%	26.0%
勉強に集中して取り組んでいる	2.9%	9.7%	30.7%	39.5%	17.2%
部活と学習の両立ができている	4.0%	12.2%	33.0%	32.3%	18.5%
自分で計画を建てて勉強している	10.3%	20.5%	29.8%	25.2%	14.2%
進路(将来)のことでわからないことがある	11.3%	17.9%	35.8%	16.9%	18.2%
進路(将来)について家の人とよく話をしている	12.6%	12.3%	31.9%	24.5%	18.7%
家の人と学校の出来事についてよく話をする	6.6%	9.6%	26.5%	24.5%	32.8%
家の方は自分のことを理解してくれていない	39.1%	26.2%	20.7%	8.5%	5.4%
家のことで心配事は少ない	6.2%	9.3%	20.3%	23.8%	40.3%
仲間はずれはいけないことだと思う	3.1%	2.4%	10.2%	21.4%	63.1%
異性のことが気になる	35.3%	19.9%	34.6%	4.5%	5.8%

平成29年度 教職員アンケート

	実現度				重要度			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない
他者(多様性)を認め、思いやる指導	31.0%	65.5%	3.4%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自分を大切にし、自己肯定感を高める指導	17.2%	72.4%	10.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
生徒の心に寄り添い、いじめを見逃さない指導	34.5%	65.5%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高め合う集団づくり	17.9%	57.1%	21.4%	3.6%	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%
規則正しい生活習慣の確立	20.7%	65.5%	13.8%	0.0%	96.7%	3.3%	0.0%	0.0%
ルールを守る態度の育成	26.7%	70.0%	3.3%	0.0%	96.6%	3.4%	0.0%	0.0%
挨拶の励行指導	13.3%	56.7%	30.0%	0.0%	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%
本時の目標を確認した毎時間の授業	32.1%	60.7%	7.1%	0.0%	66.7%	30.0%	3.3%	0.0%
生徒が主体的に取り組む授業づくり	10.7%	57.1%	32.1%	0.0%	89.7%	10.3%	0.0%	0.0%
思考ツール等を活用した学びを深める授業づくり	7.1%	39.3%	50.0%	3.6%	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%
家庭学習の習慣の確立	0.0%	57.1%	39.3%	3.6%	72.4%	27.6%	0.0%	0.0%
見通しもった生活設計力の育成(手帳指導等)	11.1%	33.3%	51.9%	3.7%	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%
探究学習の充実	14.8%	66.7%	18.5%	0.0%	48.3%	51.7%	0.0%	0.0%
伝統文化体験の充実	32.1%	53.6%	14.3%	0.0%	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%
目標・適性を見出す進路指導	21.4%	60.7%	17.9%	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
保護者との適切な対応	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%
安全管理体制の充実	24.1%	65.5%	10.3%	0.0%	86.7%	13.3%	0.0%	0.0%
校内環境の整備	20.7%	69.0%	10.3%	0.0%	82.8%	17.2%	0.0%	0.0%
仕事へのやりがいと挑戦する意欲の喚起	17.2%	65.5%	13.8%	3.4%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
自己の健康管理	10.7%	71.4%	7.1%	10.7%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%

平成29年度 保護者アンケート

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
子どもは学校に行くのを楽しみにしている。	45.1%	46.0%	7.5%	1.3%
子どもは自分を大切にした行動ができています。	41.0%	50.7%	7.9%	0.4%
子どもは仲間を大切にした行動ができています。	46.3%	50.2%	3.1%	0.4%
家庭では子どもの表情や生活を確認し、会話ができています。	39.6%	51.1%	9.3%	0.0%
子どもは礼儀正しく行動ができています。	24.2%	63.0%	12.8%	0.0%
子どもはルールや決まり事を守ることができています。	30.0%	52.4%	16.3%	1.3%
子どもの家庭学習の状況を確認し、サポートができています。	8.8%	48.0%	38.3%	4.8%
子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができています。	8.0%	35.8%	44.2%	11.9%
子どもは意欲的・積極的に授業に取り組んでいます。	18.4%	59.2%	17.9%	4.5%
子どもは授業の要点やねらいが分かりやすいと感じています。	6.7%	60.7%	28.6%	4.0%
子どもは宿題(きらめき家庭学習)を家庭で行っている。	33.6%	46.6%	16.1%	3.6%
子どもは体験を通して伝統文化を理解し、大切にできています。	22.0%	58.3%	18.4%	1.3%
学校は適切な進路情報の公開と進路指導をしている。	17.5%	65.9%	15.7%	0.9%
子どもと進路(将来)についてよく話をしている。	25.8%	49.3%	21.8%	3.1%
下京中学校の校是・教育目標に共感できる。	24.4%	67.1%	8.4%	0.0%
学校の教育活動に協力ができています。	9.7%	65.2%	22.0%	3.1%
学校は安全で安心できる環境整備がされている。	31.4%	63.3%	5.3%	0.0%
教室や学年フロアの学習環境は整備されている。	42.5%	53.5%	4.0%	0.0%
便りやホームページ等で学校の様子がよく分かる。	30.8%	59.5%	9.3%	0.4%
教職員は気持ちの良い対応である。	44.5%	49.8%	5.3%	0.4%

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標	<p>学びを深める教育実践（下京中学校版：アクティブ・ラーニング）を通じたキャリア教育の推進</p>
具体的な取組	<p>○学びを深める教育実践（下京中学校版：アクティブ・ラーニング）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体への理解を深めるための研修会の実施 ・他校の先進的な実践から学ぶ教職員の指導力の向上への取組 ・各教科の「本質的な問い」の一覧表をもとにした、教科を横断した資質・能力の育成 ・機能的な教科会を実施し、「問い」や「対話」に重点をおいた思考ツールを活用した授業の実践 ・パフォーマンス課題・評価の活用を研修し、学びの深まりの判断（評価）について研究の推進 <p>○キャリア教育を基盤とした教科授業の改善と学力分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の年間指導評価計画に基づく実践と毎時間の学習目標の明示と評価の徹底 ・授業研究、研究報告会に向けた組織的な研究実践による授業力の向上 ・小中連携による学力分析と対策の共有化と課題への迅速な対応 ・主体的に学びに向かう力や自己を管理する能力を育成するための「きらめき手帳」の活用支援計画 ・キャリア教育の視点により、一貫性のある学習と生活の指導 <p>○LD等支援が必要な生徒の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級教室による学習支援と「学充（テスト前学充・土曜学充）の時間」の充実 ・個別の指導計画の教職員における共有化と生徒一人一人の学習のつまづきの把握と丁寧な対応 ・ICT（タブレット）の効果的な活用 <p>○言語活動と探究的な活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等における言語活動の充実と図書館（マルチメディアルーム）の積極的な活用 ・総合的な学習の時間、特別活動における言語活動の充実 ・活動におけるねらいの明確化とキャリア形成を促す行事の精選と充実 ・ICT（書画カメラ、タブレット、電子黒板など）の効果的な活用 ・マルチメディアルームをイングリッシュ・ヴィレッジとして開放や、ALTや英語教育支援員を活用した英語教育の推進 <p>○外部刺激による研究・実践の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教授を講師に招き、パフォーマンス課題・評価等の先端の教育実践の研修の実施 ・キャリア教育を中核とした研究と授業研究報告会開催による指導力向上 ・中堅教員や他校の取組事例に学び、互いに切磋琢磨する教職員集団の形成 ・自己研鑽や情報交換の場の設定と視察受け入れや地域の人材・学生等との協働による組織の活性化 ・学校運営協議会による取組点検と年度途中の自己検証機会の設定
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のために方法について考えている」(生徒アンケート) ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができて」「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができて」「家庭学習の習慣の確立ができて」(教職員評価) ・「子どもは宿題を家庭で行っている」「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができて」(保護者アンケート)
各種指標結果 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のために方法について考えている」73% ・「子どもは宿題を家庭で行っている」81% ・「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができて」44%
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習として宿題に取り組む姿勢は定着している。しかし、自ら課題を見つけ、主体的にその解決のために取り組む態度は十分ではない。 ・生徒自身が自分の将来の目標の実現に向けて、具体的な計画を立てることが十分ではない。全国学力・学習状況調査においても、「学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という回答状況が芳しくなく、これまで以上に“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒がイメージできる授業実践を進めて行く必要性を感じた。 ・学びを深める教育実践として、「本質的な問い」「対話の可能生」「思考ツールの活用」を柱に研究を進め、資質・能力の育成につなげるキャリア教育が展開できている。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学びに向かう力や自己管理する能力の育成のために、「きらめき家庭学習」「きらめき手帳」の効果的な在り方について、学力向上部が中心となり組織的に改善を進める。 ・“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒が実感できる授業の実践を徹底する。 ・校内研究として学びを深める教育実践をより充実させ、教科の本質に迫る問いについて生徒に主体的に取り組みせると共に、対話についての可能生を追求し、目的に見合った対話方法についての研究を進める。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気の中、工夫した良い授業が行われ、教師は丁寧で分かりやすく話ができている。 ・家庭学習の重要性を再認識し、PTA・学校運営協議会もできる限りの支援を行う。 ・“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒がイメージできるよう、学校運営協議会やPTA実行委員会でもこの点について協議し、学校だけでなく地域・家庭と連携したキャリア教育を進めていく。 <p>評価日 平成29年8月21日</p> <p>評価者 学校運営協議会（学校評価部）</p>
	<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」68% ・「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができている」46% ・「家庭学習の習慣の確立ができている」57% ・「子どもは宿題を家庭で行っている」88%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びを深める教育実践『本質的な問い』『対話の可能性』『思考ツール』の研究」をテーマに授業改善の研究を行うことによって、生徒が主体となった取り組む授業づくりができた。 ・「思考ツール」の実践本としての出版を機会にして、より効果的な活用が進んだが、学びを深めることについては検証が不十分であった。 ・家庭学習については、学習に課題のある生徒については効果的であった。家庭学習の提出を朝の学活前にすることによって、遅刻防止にも役立った。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題・評価等の研究実践により、学びを深め、その深まりを評価することについて実践した。今後も評価指標のループリック作成のための研究を進めていく。 ・「思考ツール」の使用の際にICTの活用に取り組み、より迅速で分かりやすく思考を整理し可視化する研究も始めることができた。 ・家庭学習について生徒が主体的に取り組むことが十分でなく、家庭学習の内容や提出方法は再考する必要を感じた。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間を通じて、落ち着いた雰囲気の中で良い授業が行われていた。今後は、地域資源をより活用して学力向上に向けて研究を進めてほしい。 ・家庭学習が重要であることを、地域全体で再認識し、地域としてできる限りの支援を行いたい。 ・地域にある事業所に協力してもらい、職業観を醸成するとともに、何のために勉強するのかという意識を地域ぐるみで育てていきたい。 <p>評価日 平成30年2月26日</p> <p>評価者 学校運営協議会（学校評価部）</p>

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>道徳教育や人権が尊重される集団づくりを通して、豊かな心を育む教育活動を推進する</p>
<p>具体的な取組</p> <p>○主体的、自主的、自律的な態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したキャリア教育の実践により、“志”を抱き本気で真剣に努力していける生徒の育成 ・自分の将来展望を見据え、今の自分について深く考えることのできる学習場面の設定 <p>○本気になって互いに高め合える生活集団と規則正しい生活集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化と学年・学級活動や部活動等における心理的な居場所のある集団づくり ・学校行事を通じ学級や学年、学校への帰属意識を高める工夫 ・<u>人権教育の基盤となる人間関係づくりや持続可能な地域や社会の構築について意識できる取組</u> ・<u>学校と家庭との連携による、規則正しい生活習慣の確立</u> ・<u>ルールと法の順守と支えてくれる家族や仲間等、周囲の人への感謝の気持ちをもって生活できる生徒の育成</u>

<p>○安全な環境整備と心の健康を意識した教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の時間や人権学習の充実に向け指導の工夫と教材資料等の取扱いと活用，日常的に人権意識の高揚を図る声掛けや掲示物による環境づくり ・ 副読本を活用した授業や，適切な評価による道徳の授業の活性化 ・ 地域の人材活用による茶道体験や和食調理体験，ゆかた登校などの伝統文化教育や地域の伝統産業現場を体験し，学ぶ生き方学習など「ほんもの」に触れる学習の充実 <p>○いじめ防止，不登校対策の強化，共生社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「報・連・相」の徹底と「学校いじめ防止基本方針」に即した具体的な取組や迅速，適切な学校組織としての対応 ・ いじめアンケートやクラスマネジメントシートを活用した，いじめの予防と早期発見に向けての組織的な実践 ・ 不登校対策委員会やS Cや関係機関との連携，様々なアンケートの活用を通してきめの細かな対応の強化 ・ <u>よりよい社会や生活，人間関係を構築するとともに，手話や点字ユニバーサルデザイン等，障害理解や互いを尊重し違いを認め合い共に成長し合える生徒の育成</u> ・ <u>生きる喜びや命を大切に，充実した学校生活を送ることができる学校体制づくり</u> 	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分には良いところがあると思っている」「何か不安なことがある」(生徒アンケート) ・ 「他を思いやる指導・自分を大切にしている指導・いじめを見逃さない指導ができて」「ルールを守る態度の育成ができて」(教職員評価) ・ 「子どもは，自分を大切に行動・仲間を大切に行動ができて」(保護者アンケート) 	
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分には良いところがあると思っている」 74% ・ 「子どもは，自分を大切に行動ができて」 92% ・ 「子どもは，仲間を大切に行動ができて」 96% 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査において，学校の規則や友だちとの約束を守っているかの質問に対して，両項目とも約95%の生徒が守ることができていると答えている。規範意識は十分育っていると思われる。しかし自分に自信がなく，自尊感情についての課題は残っている。 ・ 人権についての指導を日常的に行い，いじめを見逃さない体制作りができている。また，障害のある生徒に対する理解に努め，個に応じた指導体制ができている。 ・ 不登校の生徒数が，学年が上がるにつれて増える傾向にある。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の学級での生活や学校行事を通して，仲間作りから集団作りへと意識した学級経営を進め，授業や学校行事での達成感や役割をやり遂げる経験を積み重ねることによって自尊感情の課題の改善を図る。 ・ 日常の生徒指導や人権学習等を効果的にやり，多様な価値観を認め尊重できる教育を進める。 ・ 不登校の課題解決に向けて，担任に任せきりになることなく，生徒指導部長・学年主任が中心となり，スクールカウンセラーや養護教諭と連携しながら組織的な対応を行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自尊感情の課題は，学校が生徒を抱え込み過ぎることも原因である。生き方探究・チャレンジ体験等の機会を活用し，社会の厳しさ教えそれを乗り越えさせる経験も必要である。 ・ 不登校の生徒が多いことを重要な課題と捉え，保護者や不登校支援センター等の関係機関の協力のもと，登校に向けた支援を強化する。 ・ いじめの問題や不登校の課題の解決のために，生徒の様子を細かく観察し，心に寄り添った指導を希望する。
	<p>評価日 平成29年8月21日</p> <p>評価者 学校運営協議会 (学校評価部)</p>
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「他を思いやる指導・自分を大切にしている指導・いじめを見逃さない指導ができて」 97% ・ 「ルールを守る態度の育成ができて」 98% ・ 「子どもは，自分を大切に行動・仲間を大切に行動ができて」 96% 	

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート，クラスマネジメントシート等を活用し，教職員間で綿密に情報交換を行い，いじめを見逃さない未然防止の活動と，生徒の心に寄り添った指導ができた。 ・家庭と連携し基本的なルールを守る指導を行ったが，ケータイ・スマホ等のSNSトラブルが多く発生し，利用の仕方への指導に課題が残った。 ・自己肯定感を高めることを目的とした学校行事や道徳の授業を通して，自分や仲間を大切にする行動に課題のある生徒が減少した。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスマネジメント調査等を活用し仲間づくりから集団づくりへと意識した学級経営を進めた。 ・生徒の生活背景の理解に努めるとともに，毅然とした指導を継続する。問題行動については，生徒の人格ではなくその行動を正す指導を心がけた。 ・ネットモラルについては，生徒だけでなく保護者への啓発活動も行った。生徒を取り巻くネット環境の変化を捉える研修の必要性を感じた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの問題や不登校の課題の解決のために，生徒の様子を細かく観察し，個に応じた指導が必要である。特に不登校の生徒が多いことを重要課題と捉え，保護者の協力のもとその支援を強化しなければならない。 ・警察や民間会社等とも連携をとりながら，SNSトラブル防止にはより一層力を注ぐ必要がある。保護者や地域への啓発も続けて行っていく。
	評価日 平成30年2月26日
	評価者 学校運営協議会（学校評価部）

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
個々の生徒に対して，思春期の特質を考慮し，社会との関わりを踏まえた人間としての生き方を見つめさせる指導の充実と環境の整備
具体的な取組
○道徳教育の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・他者への思いやり等の道徳性を理解し，主体的に判断し適切に行動できる態度や集団力の育成 ・道徳教育推進教師を中心とした，教育活動全般での道徳教育の実施
○規範意識の育成
<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員として協力する態度を備え，ルールや法の重要性を理解して自ら行動できる生徒の育成 ・自他の生命への尊重 ・自己信頼感や自信など自尊感情の育成
○保健体育の授業及び部活動の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育授業の時間確保と運動環境の整備 ・部活動時間のあり方を見直し，適切な活動時間と家庭・地域で過ごす時間の確保
○学習環境の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・保健室，スクールカウンセラー室等の心理的な“空間”の整備と，“空間”を効果的に活用した心理的变化の早期発見 ・ケガや病気を防ぎ，健康的で安全な教育環境の日常的な維持 ・施設などの安全点検と迅速な修理修繕による安全整備の実施
○教職員の肉体的精神的安定を図るための組織づくりの確立
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員自身が健全な心身を持つことが，教育活動の充実を図るためには不可欠であり，職場内の絆づくりを積極的に取り組める組織づくりの確立を目指す。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べている」「毎日よく眠れている」「夢や目標をもって生活ができている」（生徒アンケート） ・「規則正しい生活習慣の確立ができている」（教職員評価） ・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」（保護者アンケート）
各種指標結果（1回目）
<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を毎日食べている」86% ・「毎日よく眠れている」63% ・「夢や目標をもって生活ができている」54% ・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」82%

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・ケータイやスマホの時間を削らず、学習時間を確保しようとするために、睡眠時間が短くなっている。1日3時間以上ケータイ・スマホを使用する生徒も多く、ネット依存が深刻な課題である。 ・学校のルールや規則は守ることができているが、家庭でのケータイの使用についてのルールについては十分ではない。 ・部活動の時間の在り方を見直し、週1日以上のお休みを徹底し、家庭や地域で過ごす時間を確保することができた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が中心となり、睡眠時間の重要性を指導するとともに、健全な生活習慣の確立に向けて生徒会活動としてネット依存の課題に取り組む。 ・PTA家庭教育学級等を活用し、ネットの問題についての啓発活動を行う。 ・部活動に対する保護者説明会を実施し、部活動の在り方についての理解を図り、学校と家庭との協力体制を構築する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットの長時間利用による悪影響は、大きな課題である。人間関係のトラブルや生活習慣の乱れにつながるようには、ネットの利用方法についての学習には重点をおく必要がある。 ・部活動の在り方についての保護者の価値観が多様化している。適切に休日設定するとともに、指導方法については、柔軟に対応してもらいたい。
	評価日 平成29年8月21日 評価者 学校運営協議会（学校評価部）
各種指標結果（2回目） <ul style="list-style-type: none"> ・「規則正しい生活習慣の確立ができている」86% ・「子どもは学校に行くのを楽しみしている」90% 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・食事についての課題はないが、睡眠時間が不足しているという課題が解決されていない。ケータイ・スマホの利用の仕方が深く関与している。体調不良を訴え、保健室に訪問する生徒も多かった。 ・保健体育の授業や休憩時間に、少しのことでケガをする生徒が多かった。 ・どの学校行事に対しても、生徒がいきいきと取り組み、学校生活を楽しむ姿が多く見られた。 ・薬物乱用防止や性教育についての啓発学習を行った。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や保健体育教諭が中心となり、睡眠時間の確保についての啓発を進めた。 ・準備運動でケガする生徒もあり、運動習慣のない生徒への対処は、小学校とも連携をして進めていく必要がある。 ・家庭に対し、薬物乱用防止やタバコの害等の健康についての啓発活動を一層進めていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・健康維持に対しての意識が不十分なためにLINE等の利用時間が長くなっている。睡眠時間への悪影響は深刻な問題である。 ・薬物乱用や性非行についても、ケータイ・スマホが深く関係している。保護者や地域が生徒を取り巻くSNSの状況をしっかり認識しておく必要がある。 ・学校行事に対して子どもたちが一生懸命な姿が多く見られ、いい学校であると感じている。
	評価日 平成30年2月26日 評価者 学校運営協議会（学校評価部）

（４）学校独自の取組

重点目標 キャリア教育の推進を視点に学校行事運営や生活指導・部活動指導を進める
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ○<u>道徳の時間において、22項目のそれぞれがキャリア教育の基礎的・汎用的能力のいずれに当てはまるのかを明確にした実践</u> ○<u>総合的な学習の時間において、「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4つの分野のそれぞれでキャリア教育の視点を持ち、自己の生き方を考える取組の実践</u> ○キャリア教育の視点に立って特別活動・生徒会活動の実践 ○キャリア教育の視点に立っての部活動指導

<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分から役割や仕事を見つけたり, 分担したりしながら, 周囲と力を合わせて行動しようとしている」「何か問題が起きたとき, 次に同じような問題が起こらないようにするために, 何をすればよいか考えている」「学ぶことや働くことの意義について考えたり, 今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考える」(生徒アンケート) ・「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」(教職員評価) ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」(保護者アンケート) 	
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分から役割や仕事を見つけたり, 分担したりしながら, 周囲と力を合わせて行動しようとしている」87% ・「何か問題が起きたとき, 次に同じような問題が起こらないようにするために, 何をすればよいか考えている」85% ・「学ぶことや働くことの意義について考えたり, 今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考える」79% ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」80% 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の充実を図り, キャリア教育の視点に当てはめるとともに, タイムリーで効果的な指導を行うことができた。 ・日常の学校生活や部活動をキャリア教育の視点で見つめ直し, 資質・能力の育成に努められた。 ・総合的な学習の時間の「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4分野において, 自他を大切に多様な価値を認め, 自己の生き方を考える取組が実践できた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲と協力しながら自分の役割を果たすことや, 問題が起きても最後までやり遂げることの大切さを学ぶことに重点をおいた学級活動や学校行事を行う。 ・学ぶことや働くことの意義について考える機会を意図的に設け, 今学んでいることと将来のつながりを意識し, 自分らしい生き方の実現のために行動できる取組を行う。 ・地域への関心を高め, 地域の人とのつながりを実感できる伝統文化体験を行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今学んでいることと将来のつながりが意識できるような職場体験 (2年生) やしごと場訪問 (1年生) にするために, 地域の事業所に協力を依頼していく。 ・伝統文化体験 (着付け教室・ゆかた登校) において, 地域女性会が協力しているが, 今後も引き続き支援をしていく。 ・和食調理体験や茶道体験等の後半の伝統文化体験において, 綿密に連絡を取り, 充実した取組となるよう協力していく。
<p>評価日 平成29年8月21日</p> <p>評価者 学校運営協議会 (学校評価部)</p>	
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探究学習を充実させた指導ができています」82% ・「伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」86% ・「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」91% 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年の探究学習をこれまでの個人研究からグループ研究に改善し, より対話を重視した探究活動を行った。探究のテーマ設定で課題もあったが, 生徒は積極的に活動できていた。 ・地域人材を活用し, 和食調理体験・茶道体験等を今年度も行い, 充実した活動となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動のテーマ設定について, 教職員の研修を行う必要がある。取組が形骸化している点もあり, 活動の意義等を再確認していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質, 能力の育成に重点をおき, 生徒が自信をもてる分野を広げ, 地域も参画できるキャリア教育を推進すべきである。 ・地域にある事業所や地域人材をより有効活用して, 本校校区の特色を生かした本物にふれる機会をより充実させてほしい。 ・地域は学校教育に対して積極的に協力しようとしている。小学校とも連携して学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) を活性化させてもらいたい。
<p>評価日 平成30年2月26日</p> <p>評価者 学校運営協議会 (学校評価部)</p>	